社会福祉法人新井頸南福祉会

令　和　３　年　度　事　業　報　告　書

・法人経営

・事業運営

介護老人福祉施設

短期入所生活介護

通所介護

訪問介護

居宅介護支援

小規模多機能型居宅介護

認知症対応型共同生活介護

有料老人ホーム

委託事業

目　次

１．法人の事業概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

２．理事会等の活動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

３．法人本部（法人事務局）活動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・ 4

４．事業運営状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

・みなかみの里事業運営状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

・北条の家事業運営状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

・ゆきのみや事業運営状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

・みのりの丘事業運営状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

・妙高の里事業運営状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

・名香山苑事業運営状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

・委託事業運営状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

令和３年度事業実施状況

令和 4 年 3 月 31 日現在

1. 法人の事業概要

(1) 法人の名称　社会福祉法人新井頸南福祉会

(2) 事務所の所在地　新潟県妙高市大字上新保 549 番地（みなかみの里内）

(3) 設立認可年月日　昭和 63 年 7 月 22 日

(4) 設立登記年月日　昭和 63 年 8 月 5 日

(5) 代表者　理事長　恩田 義男

(6) 役員等の構成

①. 理事　定数 6 名以上 8 名以内　現在員 6 名

②. 監事　定数 2 名　現在員 2 名

③. 評議員　定数 7 名以上 9 名以内　現在員 7 名

④. 評議員選任・解任委員　定数 5 名　現在員 5 名

(7) 法人事務局　事務局長 1 名、法人総務課 2 名、企画調整課 2 名

(8) 事業の内容

①. 第一種社会福祉事業
・特別養護老人ホームの経営

②. 第二種社会福祉事業
・老人短期入所事業の経営
・老人デイサービス事業の経営
・老人介護支援センターの経営
・老人居宅介護等事業の経営
・認知症対応型老人共同生活介護事業の経営
・小規模多機能型居宅介護事業の経営
・障害福祉サービス(短期入所)事業
・障害福祉サービス(訪問介護)事業

③. 公益事業
・居宅介護支援事業
・介護保険法に定める訪問調査の受託等
・有料老人ホームの経営

④. 受託事業
・妙高市高齢者生活福祉センター管理業務

(9) 施設の内訳等

①. みなかみの里
・所在地: 新潟県妙高市大字上新保 549 番地
・事業等: 特別養護老人ホーム(100 床)、短期入所(33 床・空床型)、デイサービス(30 名)、在宅介護支援センター、居宅介護支援
・職員数: 132 名（正職員 75 名、常勤契約 3 名、非常勤 53 名、嘱託員 1 名）

②. ゆきのみや
・所在地: 新潟県妙高市大字宮内 92 番地 3
・事業等: 特別養護老人ホーム(18 床)、小規模多機能型居宅介護(登録 25 名)
・職員数: 33 名（正職員 19 名、常勤契約 1 名、非常勤 13 名）

③. 北条の家
・所在地: 新潟県妙高市大字北条 585 番地 1
・事業等: 訪問介護、小規模多機能型居宅介護(登録 18 名)、有料老人ホーム(20 室)
・職員数: 28 名（正職員 8 名、常勤契約 2 名、非常勤 18 名）

④. 名香山苑
・所在地: 新潟県妙高市大字関川 733 番地 20
・事業等: 特別養護老人ホーム(100 床)、短期入所(22 床・空床型)、デイサービス(35 名)、在宅介護支援センター、居宅介護支援、妙高市介護予防／生活支援サービス事業運営業務
・職員数: 121 名（正職員 76 名、常勤契約 6 名、非常勤 35 名、嘱託員 4 名）

⑤. みのりの丘　・所在地: 新潟県上越市中郷区藤沢 998 番地 1
・事業等: 特別養護老人ホーム(29 床)、小規模多機能型居宅介護(登録 29 名)、認知症対応型共同生活介護(18 床)、通所介護(30 名)
・職員数: 84 名(正職員 39 名、常勤契約 3 名、非常勤 42 名)

⑥. 妙高の里　・所在地: 新潟県妙高市大字葎生 531 番地 1
・事業等: デイサービス(32 名)、妙高市高齢者生活福祉センター管理業務
・職員数: 22 名(正職員 5 名、常勤契約 1 名、非常勤 16 名)

(10) 基本財産

①. 土地

【みなかみの里】	・新潟県妙高市大字上新保 549 番地 1	10,104.08 ㎡
【ケアハートみなかみ】	・新潟県妙高市大字上新保 554 番地 1	2,778.80 ㎡
	・新潟県妙高市大字上新保 1398 番地 2	52.00 ㎡
	(小計 3 筆	12,934.88 ㎡)
【名香山苑】	・新潟県妙高市大字関川 733 番地 20	4,239.80 ㎡
	・新潟県妙高市大字関川 732 番地 5	390.43 ㎡
	・新潟県妙高市大字関川 732 番地 6	271.88 ㎡
	・新潟県妙高市大字関川 732 番地 8	47.81 ㎡
	・新潟県妙高市大字田口 1 番地 12	5,005.46 ㎡
	・新潟県妙高市大字田口 1 番地 24	304.17 ㎡
	・新潟県妙高市大字田口 1 番地 26	604.18 ㎡
	・新潟県妙高市大字田口 8 番地 1	807.05 ㎡
	・新潟県妙高市大字毛祝坂 1 番地 5	506.38 ㎡
	(小計 9 筆	12,177.16 ㎡)
【ゆきのみや】	・新潟県妙高市大字宮内 92 番地 3	1,623.00 ㎡
	・新潟県妙高市大字宮内 93 番地 1	76.00 ㎡
	・新潟県妙高市大字宮内 93 番地 2	1,495.00 ㎡
	(小計 3 筆	3,194.00 ㎡)
【みのりの丘中郷】	・新潟県上越市中郷区藤沢 998 番地 1	949.50 ㎡
	・新潟県上越市中郷区板橋 569 番地 2	1,624.74 ㎡
	・新潟県上越市中郷区八斗蒔 127 番地 2	1.60 ㎡
	・新潟県上越市中郷区八斗蒔 128 番地 1	4,038.61 ㎡
	(小計 4 筆	6,614.45 ㎡)
	合計 19 筆	34,920.49 ㎡

②. 建物

【みなかみの里】	・養護所	5,439.30 ㎡	
【ケアハートみなかみ】	・倉庫・車庫	147.60 ㎡	
	・機械室	42.13 ㎡	
	・物置	8.27 ㎡	
	・機械室	36.72 ㎡	(小計 5 棟 5,674.02 ㎡)
【名香山苑】	・養護所	6,207.59 ㎡	(小計 1 棟 6,207.59 ㎡)
【ほのぼの北条】	・養護所	199.98 ㎡	
	・車庫	27.95 ㎡	(小計 2 棟 227.93 ㎡)
【ゆきのみや】	・養護所	1,218.14 ㎡	(小計 1 棟 1,218.14 ㎡)
【みのりの丘】	・養護所	2,931.66 ㎡	(小計 1 棟 2,931.66 ㎡)
			合計 10 棟 16,259.34 ㎡

(11) 公益事業用財産

①. 建物

【あっとほーむ北条】	・共同住宅	742.28 ㎡	合計 1 棟 742.28 ㎡

2. 理事会等の活動状況

(1) 理事会

①. 令和3年度第1回通常理事会(令和 3 年 5 月 26 日開催)

・常勤役員の7月賞与支給額について
・評議員選任・解任委員の選任について
・理事及び監事の推薦について
・令和2年度事業報告について
・令和2年度事業会計収支決算について
・令和3度定時評議員会について

②. 令和3年度第1回臨時理事会(令和 3 年 6 月 11 日開催)

・理事長の選任について
・常務理事の選任について

③. 令和3年度第2回通常理事会(令和 3 年 11 月 24 日開催)

・常勤役員の 12 月賞与支給額について
・職員安全衛生管理規則の一部改正について
・令和3年度事業会計収支補正予算について

④. 令和3年度第3回通常理事会(令和 4 年 3 月 23 日開催)

・就業規則の一部改正について
・契約職員就業規則の一部改正について
・短時間勤務職員就業規則の一部改正について
・育児休業及び育児支援等の勤務に関する規程の一部改正について
・介護休業及び介護支援等の勤務に関する規程の一部改正について
・給与規程の一部改正について
・あっとほーむ北条指定居宅介護等事業運営規程の一部改正について
・令和3年度事業会計収支補正予算について
・令和4年度経営及び事業計画について
・令和4年度事業会計収支予算について

(2) 監査会

①. 令和3年度第1回監査会(令和 3 年 5 月 18 日開催)

・決算監査(令和2年度事業報告書・財産目録・貸借対照表及び収支計算書の監査)

②. 令和3年度第2回監査会(令和 3 年 10 月 19 日開催)

・定期監査(名香山苑ブロック各施設の令和3年度前期事業及び会計処理等の監査)

(3) 評議員会

①. 令和3年度定時評議員会(令和 3 年 6 月 11 日開催・決議の省略を提案)

・理事及び監事の選任について
・令和2年度事業報告及び決算(計算)書類並びに財産目録の承認について

(4) 評議員選任・解任委員会

①. 令和3年度第1回評議員選任・解任委員会(令和 3 年 4 月 21 日開催・決議の省略を提案)

・評議員選任・解任委員会委員長の選任について
・評議員の選任について

３. 法人本部(法人事務局)活動状況

(1) 安定的な事業運営

〇新型コロナウイルス感染防止対策と利用者の心身の健康保持の両立を目指し、各施設での安定した事業活動の継続を目標に取り組んできた。7月末までに2回目のワクチン接種を行い、2月末までに3回目のワクチン接種を、主に特養の利用者と職員全員に対して実施した。感染者数が減少した 11 月からは、対面での面会を再開したほか職員の日常生活上の行動規制も緩和したものの、2月には県内でもまん延防止等重点措置が適用され、上越地域も感染者数の増加が著しい事態になったため、再び制限のある生活を強いることとなった。小規模多機能型居宅介護事業の職員が感染したため、通いの受け入れを1週間程中止することが、法人内の2ヵ所の事業所で発生した。

〇6月に上越労働基準監督署の安全衛生調査を受け、法人全体の安全衛生体制を見直し、新たに安全推進者を置くとともに、安全衛生委員会の体制と役割などの再構築を行った。下期には、令和4年 10 月からのパート従業員の社会保険適用拡大に向け、法人の契約職員（常勤・パート職員）の雇用条件などを見直して、新年度から適用する週 30 時間勤務(常勤)契約職員を制度化した。年度末には、育児・介護休業法の改正による育児休業を取得しやすい雇用環境の整備に向けた関係規程の改正を行うなど、年間を通して職場環境の整備や内部組織の再構築が求められた。

〇法人の事業・サービスが有機的にリンクする連携構造を表現し、“つなぎ・つながるサービスの創造”を具体化した法人共通パンフレットを策定した。ホームページや広報誌の内容充実と合わせて、各施設において新たなパンフレットの積極的な活用を通じ、幅広く法人情報の発信を図りたい。

(2) 経営 10 カ年計画推進部会活動と進行管理

〇広報推進委員会では、各施設において選任された広報責任者への支援、助言等を行うとともに、新たな形式で発行された広報誌やブログを中心に、その内容の確認や意見交換を行った。

〇人材育成推進委員会では、前年度に実施した第2回職員満足度調査の結果の分析と平行して、リーダー職員を対象に5月に実施した人事考課実態調査の内容を検証した。

〇サービス向上管理委員会では、9月に虐待防止のための指針を策定し、3月に感染症及び食中毒の予防・まん延防止のための指針の策定及び感染症対策マニュアルの見直しを行った。

〇ICT・ロボット技術研究委員会では、在宅サービスを中心に記録や予約に係るシステムを導入し、通信機器や掃除ロボットの部分導入やパワースーツのデモなども実施した。新年度からの短期入所を含めた施設サービスにおけるナースコール設備の更新に向け、機種選定に関わった。

〇地域包括ケア推進委員会では、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域貢献活動等が一年を通して行えなかった。認知症サポーター養成講座で披露していた寸劇を DVD 化し、2月に実施した市内中学校2校での認知症サポーター講座で活用した。

(3) 内部監査によるサービス管理

〇内部経理監査（前期・後期）は、従来通りの巡回方式で実施した。内部事業監査（8事業 16 施設）は、企画調整課の増員に合わせて担当を見直し、介護保険サービス事業者等の実地指導の事前提出資料の一部を活用して、2年ぶりに巡回方式で実施した。監査結果を翌月の事業運営会議で説明し、改善事項等を指示した。また、半期毎にその期の実施状況、指摘事項や改善計画等を法人監査会に報告した。

(4) 職員研修や資格取得の促進による職員育成

〇キャリア採用者が例年に比べ多く、新採用職員研修の実施回数が大幅に増加し、企画調整課の増員により、配属後のフォローアップや面談なども充実した。職位階層別研修は、主に課長職を中心にオンライン研修に切り替えたことで、受講の人数や時間の増加が見られた。後半は、新年度からの新卒採用職員向けのオンライン研修の導入準備を行った。

４. 事業運営状況

⑴介護老人福祉施設

稼働率は、事業全体で 0.4%向上し、事業活動収入も 0.9%増加した。入院原因の多くを占める誤嚥性肺炎予防の取り組み等入所者の健康管理を徹底した結果、入院日数は、長期入院の多かったゆきのみやで 235 日増加したものの、事業全体で 532 日減少したことが実績向上につながった。事業運営面では、見守り機器の追加導入や職員研修のオンライン化等職員の介護負担の軽減や業務の効率化につながる取り組みを進めた。新型コロナウイルス感染症対策については、引き続き徹底するとともに、入所者・職員へのワクチン3回目接種を年度内に完了し、新型コロナウイルス感染症等の発生はなかった。また、対面による面会制限が続いたため、リモート面会や窓越し面会を取り入れた他、みなかみの里では、新たな面会室を整備し、面会の充実に努めた。

施設名	みなかみの里		名香山苑		ゆきのみや		みのりの丘中郷	
定　員	100 人	（100 人）	100 人	（100 人）	18 人	（18 人）	29 人	（29 人）
稼働率	96.7%	（95.3%）	96.1%	（95.9%）	94.4%	（97.4%）	98.7%	（98.8%）
平均介護度	4.2	（4.3）	4.3	（4.3）	4.4	（4.3）	4.3	（4.4）
事業活動収入	429,054 千円	(421,630 千円)	431,101 千円	(427,332 千円)	92,785 千円	(93,783 千円)	156,103 千円	(156,456 千円)

（　）は前年度実績　*以下同様

⑵短期入所生活介護

稼働率は、事業全体で 1.4%向上し、平均介護度も名香山苑で 0.2 上がったため、事業活動収入は、0.9%増加した。予約段階での利用者確保とキャンセル処理を徹底するとともに、家族に利用中の様子をこまめに報告する等リピーターを増やす取り組みが実績の向上につながった。事業運営面では、2事業所で記録システムを導入し、業務日誌や個々のケース記録等をシステムに移行することで業務の効率化を図った。

施設名	ケアハートみなかみ		名香山苑	
定　員	33 人	（33 人）	22 人	（22 人）
稼働率	88.6%	（88.5%）	87.3%	（84.0%）
平均介護度	2.9	（2.9）	2.8	（2.6）
事業活動収入	126,833 千円	(127,550 千円)	79,159 千円	(76,677 千円)

⑶通所介護

平均介護度は事業全体で 0.2 上がったものの、稼働率が 0.1%低下した。事業活動収入については、前年度分にはコロナ対策支援金が上乗せされているため、4.8%減少した。新型コロナウイルス感染症による利用自粛や、大雪のため短期入所への移行やキャンセルが多かったことが実績に影響した。事業運営面では、4事業所で記録システムを導入し、業務日誌や連絡帳等をシステムに移行することで業務の効率化を図った。また、専門職による個別機能訓練が定着し、利用者や介護支援専門員から高い評価を得ることができた。新たな取り組みとして、えんじゅの郷でレクリエーションやカラオケ等豊富なメニューを備えた通信機器を試験導入し、利用者から好評を得たため、次年度から4事業所で本格導入することとした。

施設名	みなかみの里		えんじゅの郷		妙高の里		名香山苑	
定　員	30 人	（30 人）	30 人	（30 人）	32 人	（32 人）	35 人	（35 人）
稼働率	81.5%	（79.9%）	77.3%	（80.6%）	73.3%	（73.4%）	85.9%	（84.6%）
平均介護度	2.0	（1.9）	1.8	（1.9）	2.4	（2.2）	1.7	（1.7）
事業活動収入	79,871 千円	(79,927 千円)	67,636 千円	(75,096 千円)	74,334 千円	(79,700 千円)	85,614 千円	(88,077 千円)

⑷訪問介護

利用件数は、前年度比で1日あたり2.6件減少し、事業活動収入も14.6%減少した。9月から常勤職員１名・パート職員１名が増員されたものの、上半期の人員不足や新型コロナウイルス関連によるキャンセルが多く

発生したことが実績に影響した。今後は、人員の安定確保と利用者の半数近くを占める妙高・妙高高原地域にある2つの出張所を活用した新規利用者の受け入れ強化、タブレット等を活用した効率的な事業運営を進めていく必要がある。

施設名	ヘルパーステーション北条	
件　数	14.1 件/日	（16.7 件/日）
平均介護度	1.1	（1.1）
事業活動収入	19,102 千円	(22,358 千円)

(5)居宅介護支援

利用件数は、事業全体で前年から一月あたり10件増加し、平均介護度も若干上がったことから、事業活動収入は2.9%増加した。みなかみの里、名香山苑ともに新規依頼が安定していたことに加え、地域包括支援センターと連携し、予防・介護給付のバランス維持に努め、すべての項目で前年度の実績を超える結果となった。事業運営面では、サービス調整や会議等を通じて法人サービスの連携の要としての役割を遂行した。また、新型コロナウイルス感染症の感染者や濃厚接触者となった利用者のサービス調整に努めた。

施設名	みなかみの里		名香山苑	
件　数	213.8 件/月	（210.7 件/月）	202.5 件/月	（195.6 件/月）
平均介護度	1.7	（1.6）	1.7	（1.6）
事業活動収入	33,924 千円	(33,343 千円)	31,089 千円	(29,816 千円)

(6)小規模多機能型居宅介護

稼働率は、事業全体で7.8%低下した。加えて平均介護度が、ほのぼの北条で0.3上がったものの、ほのぼの宮内で0.1と中郷で0.1下がったことから、事業活動収入は、7.3%減少した。事業全体で介護度の高い方の入院や施設入所等による契約解除が多く実績に影響した。事業運営面では、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域交流活動の縮小を余儀なくされたが、感染対策を講じたうえで、施設内でのレクリエーションや創作活動の充実を図り、利用者の心身の機能維持や気分転換を図った。今後は、それぞれの事業所の特色を生かした取り組みを強化するとともに、小規模多機能事業の特徴など有利な点を積極的にPRし、稼動率の向上につなげていく必要がある。

施設名	ほのぼの北条		ほのぼの宮内		ほのぼの中郷	
定　員	18 人	（18 人）	25 人	（25 人）	29 人	（29 人）
稼働率	81.9%	（98.3%）	78.6%	（82.4%）	74.3%	（80.2%）
平均介護度	2.1	（1.8）	2.0	（2.1）	1.8	（1.9）
事業活動収入	38,810 千円	(44,005 千円)	55,270 千円	(57,496 千円)	55,978 千円	(60,373 千円)

(7)認知症対応型共同生活介護

稼働率は、0.5%低下したものの平均介護度が0.4上がったため、事業活動収入は1.0%増加した。事業運営面では、新型コロナウイルス感染症の影響で、面会中止や地域交流活動の縮小を余儀なくされたが、感染対策を講じたうえで、施設内行事やレクリエーションの充実を図るとともに、家族に入所者の日常生活の様子を手紙や写真で定期報告する等入所者と家族の絆を大切にするように努めた。

施設名	グループホームあすなろ	
定　員	18 人	（18 人）
稼働率	99.1%	（99.6%）
平均介護度	2.3	（1.9）
事業活動収入	84,158 千円	(83,360 千円)

(8)有料老人ホーム

稼働率は、0.3%低下し、事業活動収入は1.5%減少した。入居者の高齢化・重度化が進み、入院後に身体状況が低下し、退居されるケースが増えたことが実績に影響した。一方でサービスを必要とする入居者が増えたため、ぬくもりサービスの実績が向上した他、生活相談員による相談援助の強化や法人サービスとの連携に努めた。

施設名	あっとほーむ北条	
定　員	20 人	（20 人）
稼働率	95.0%	（95.3%）
平均介護度	―	―
事業活動収入	31,146 千円	(31,609 千円)

(9)委託事業

妙高市高齢者生活支援センター事業（定員12名）は、12月～4月までの間で6名（全員女性）の入居があった。入居理由は全員の方が「降雪のため自宅での生活が困難」としており、妙高・妙高高原地区ともに大雪だったこともあり、利用して良かったとの声が多かった。また、施設内の清掃を強化するなど生活環境の整備に努め、入居者から好評を得た。

(10)事故及び感染症の発生状況と対策

事故については、法人全体で前年度から1件増加し 30 件発生した。内訳は、骨折 12 件、誤薬5件、誤嚥2件、外傷3件、打撲2件、車両6件、その他0件だった。9/23（木）名香山苑短期入所事業で、昼食時に誤嚥による死亡事故が発生した。利用者は要介護4で食事は自力摂取、嚥下状態は比較的良好だったが、原因不明の意識喪失が時々見られたため、注意していたなかでの事故だった。医師から嚥下時の意識喪失による誤嚥・窒息との診断・説明があり、家族にもご理解をいただいている。3大事故としている骨折・誤薬・車両事故については、骨折事故は前年度から3件減少したが、誤薬事故、車両事故で各1件増加した。今後は、モニター付コールシステムの導入や見守り機器・誤薬防止システム等を活用し、科学的な視点から安全対策を進めて行く必要がある。

感染症対策については、施設・事業所内に新型コロナウイルス感染症を持ち込まない・拡げないために、発熱等の感染症状のある利用者・職員に対する初期対応や、マスク着用・消毒・換気等の徹底、ソーシャルディスタンスの確保、面会制限等を実施した。法人2ヵ所の小規模多機能事業所で職員2名が感染したものの、通いサービスの休止や館内消毒等迅速な対応を行い、利用者への感染拡大を防ぐことができた。また、例年発生するインフルエンザ・ノロウイルス等の感染症の発生も抑えられた。今後もウィズコロナ下における基本的な感染症対策の継続と、利用者の健康保持及び生活の質の確保を両立していく必要がある。

(11)苦情の状況

法人全体で苦情はなかった。

み－1

＜特別養護老人ホームみなかみの里／介護老人福祉施設事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
実入院が41名、延べ入院日数が885日とどちらも少なくなったことから稼働目標を達成することができた。要因としては昨年から減少していた誤嚥性肺炎での入院がさらに減少したことと、入院後に退院の目処が立たない場合の病院の判断が早くなったことで、次の入所者に対応することができるようになった。結果として入退所の人数は多くなったが、全体的な稼働の安定につながった。また、今年度は見守り機器の増設や、服薬支援システムの導入、職員研修のオンライン化など職員の介護負担の軽減や業務の効率化に取り組むことができた。まだ使いこなすには時間がかかるが、今後も介護ロボットの更なる充実に取り組んでいく。設備面では2台の特殊浴槽を入れ替えたことと、年度末には面会室が新たに完成した。これにより今後の積極的な面会の受け入れにつなげることができた。

<table>
<tr><th>事 業 項 目</th><th>実 績</th></tr>
<tr><td>

1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保
・安定した稼働維持のための入院者数の減少
・病院との連携による入院者の状態把握と早期の対応

</td><td>

<table>
<tr><td>定　員</td><td>100 人</td><td>（100 人）</td></tr>
<tr><td>稼働率（特養）</td><td>96.5%</td><td>（95.0%）</td></tr>
<tr><td>稼働率（短期）</td><td>0.2%</td><td>（1.0%）</td></tr>
<tr><td>平均介護度</td><td>4.2</td><td>（4.3）</td></tr>
<tr><td>事業活動収入</td><td>429,054 千円</td><td>（429,339 千円）</td></tr>
</table>

（　）は事業目標
〇歯科衛生士による継続的な口腔ケアの実施により、誤嚥性肺炎での入院者を減少させることができた。
〇病院のソーシャルワーカーと連携を強化し、入院後の退院の目途が立たない場合の対応がスムーズになり、入院期間の短縮につなげることができた。

</td></tr>
<tr><td>

2．入院日数と新規入所に係る空床期間の短縮
・入院対策会議による、原因分析と対策の実行
・空床発生時の速やかな対応（空床日数7日以内）

</td><td>

〇4回の入院対策会議を開催し、課題を分析することで近年では最も入院者を少なくすることができた。
〇入所候補者の選定は概ねできていたが、入退所が続いた時など対応が間に合わなくなるなることがあった。入所までの空床日数は13.2日と目標には届かなかった。

</td></tr>
<tr><td>

3．空床型短期入所を最大限活用し、つなぎ・つながるサービス体系の積極的な情報発信
・入院者の空きベッドの活用
・「つなぎ・つながるサービス」の具体化
・空床型短期入所に関するお知らせ文書の作成

</td><td>

〇空床型短期入所は延べ 73 日の利用があった。
〇居宅支援課、短期入所課と連絡を取り合い、緊急時にも迅速に空床利用につなげることができた。
〇今年度は稼働が安定していたこともあり、空床利用の対応が難しかったことから居宅介護支援事業所への案内は次年度に繰り越すこととした。

</td></tr>
<tr><td>

4．身体拘束廃止及び虐待防止の取組みによる人権尊重と利用者本位の介護サービスの提供
・身体拘束や虐待防止に関する研修会の開催

</td><td>

〇身体拘束と虐待防止に関する研修会をそれぞれ年2回開催し、全職員を対象にしたアンケート調査も2回実施した。

</td></tr>
<tr><td>

5．介護ロボットによる入所者の重度化対応と生活の質の向上
・介護ロボットの導入
・ノーリフトケアの充実

</td><td>

〇服薬支援システムを新たに導入するとともに、見守りロボットを2台増設した。
〇ノーリフトケアの充実のために更なる職員研修と福祉用具を整備した。

</td></tr>
</table>

事　業　目　標	目標達成のための取組み
6. 科学的根拠や実践効果が認められた質の高い認知症ケアの提供 ・認知症介護実践者研修及びリーダー研修の受講 ・認知症ケア研修会の開催 ・認知症ケアマッピングの開催	○認知症介護実践者研修を1名が受講した。 ○認知症ケア研修会を 11 月に開催した。 ○認知症ケアマッピングを1月に開催した。
7. 感染対策の継続と新しい生活様式下での家族や地域とのつながりを確保する方策の検討と実践 ・感染対策に配慮した面会方法の検討 ・広報誌やブログを使用した積極的な情報発信 ・ボランティアや地域との交流についての検討 ・入所者、家族を対象としたアンケートの実施	○1階ロビーに簡易的な面会室を整備し、面会していただくとともに、オンライン面会も継続的に実施した。 ○ブログでは 53 回の投稿で情報発信を行った。 ○ボランティアや地域との交流はまだ実施できず、今後の状況を踏まえて検討していく。 ○アンケートを 12 月に行い、3月にフィードバックを実施した。
8. 5S活動を継続し、職場内の環境改善や業務効率化の推進 ・環境美化活動の実践 ・コスト、エコ意識を高めるための取組みの実践	○美化委員会を中心に環境美化活動についての取り組みを実施した。（材料庫整理や居室の清掃等）
9. 入所者の重度化と看取り介護の充実を目指したケアの質の向上(*) ・新たな加算の算定を通し、誤嚥性肺炎の更なる予防に向けた取り組みの実施 ・褥瘡を予防、改善するための取組みの実施 ・アンケートを通した看取りケアの質の向上 ・入所者と家族の思いを受け止め希望に沿った看取りケアの実施 ・喀痰吸引研修の計画的な受講 ・質の高いケアマネジメントの実践	○嚥下チームが中心となり、経口維持加算の算定を開始した。（3月末の加算算定者 25 名） ○褥瘡チームを中心に予防、改善についての取り組みを実施した。今年度より新たな褥瘡マネジメント加算を算定するとともに、9月には褥瘡予防研修を実施した。 ○今年度は合計で 12 名の方からアンケートの回答を得ることができた。 ○今年度は病院で最期を迎える方が多く、31 名の退所者の内、施設での看取りは4名であった。 ○喀痰吸引研修は4名が修了した。 ○9月にケアマネジメントについての研修会を実施した。今後はアセスメントシートの変更について検討していく。 ○新たに導入したオンライン研修システムにより、内部研修に参加できなかった職員も後日動画で研修内容を確認できるようにした。
10. サービス向上のための施設・備品等の整備(*) ・面会室の設置 ・特殊浴槽の更新	○家族が直接外から出入りすることのできる面会室を新たに整備した。今後はさらに積極的に面会を促していく。 ○特殊浴槽を2台とも入れ替えることができ、これにより入所者と職員がともに安心した入浴業務を行うことが出来るようになった。

2. 事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	5件	1件	6件

3. 苦情受付け状況

件　数	0件

み－2

＜在宅複合型施設ケアハートみなかみ／短期入所生活介護事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
新規契約は 41 件（前年度 46 件）と件数は減少しているが、月初稼働率は平均＋3.8%で、リピート率が 87.8%（前年度 72.7%）と前年に比べて上回り、効率的な稼働向上へつなげることができた。第３四半期は入院や入所、死亡等のキャンセルで稼働が大きく低下したものの、それ以外は比較的安定した稼働となり、目標稼働率を達成することができた。

事 業 項 目	実 績
1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保 ・リハビリ入院後の受け皿としての利用促進（年 10 件） ・上越地域からの新規利用の促進	定　員：33 人（33 人） 稼働率（件数）：88.6%（88.2%） 平均介護度：2.9（2.9） 事業活動収入：126,833 千円（126,475 千円） （　）は事業目標 ○退院後の利用で、リハビリ希望のあった方は1名だった。 ○旧上越市１名、中郷区７名、板倉区５名の新規受け入れを行った。
2．キャンセル処理の迅速化とリピーターを増やす取組みを継続し、予約段階における利用者の最大限の確保 ・新規で医療依存度の高い方を含め、キャンセルの可能性の高い方の予約管理の重点化 ・新規利用後の書面による情報提供によるリピート率の安定化 ・月初予約の稼働率を目標稼働率＋７%の確保	○新規医療依存度が高いと判断した方は 41 名中4名で、内3名は利用につなぐことができた。 ○リピート率は 87.8%であった。ネットワークシステムを活用し、新規利用後の情報提供を行った。 ○月初の稼働率最大＋8.5%、最低－2.0%、平均＋3.8%となった。
3．通所介護事業と連動した個別機能訓練を通じ、法人サービス間のつながりを強化 ・効果的且つ効率的により多くの個別機能訓練実施のための連携強化 ・連携強化による効果を居宅介護支援事業所等にPR	○個別機能訓練加算は 35 名が算定。 ○新規契約時やサービス担当者会議、広報誌にて個別機能訓練の実施状況、通所介護と連動した訓練についてPRを実施した。
4．障がい者、医療依存度の高い方、対応困難ケース等の積極的な受け入れ ・医務看護課と連携し、医療依存度の高い方の受け入れ強化（800 日/年） ・居宅支援課、通所介護課合同での困難事例ケースの検討会を通じた対応力の向上	○医療依存度の高い方の受け入れは4名、延べ 699 日となった。 ○検討会開催の調整を行うも、新型コロナウイルス感染拡大等により開催できなかったが、情報共有は実施した。
5．記録システムの導入による、情報の共有化と業務の効率化 ・事業所別会議での情報共有化と業務効率化を多職種協働で実施 ・記録システムの導入に向け、名香山苑短期入所課と連絡・調整を実施	○12/20 名香山苑短期入所課と合同で記録システム説明会を職員に実施した。 ○５月より計８回名香山苑短期入所課と打ち合わせを実施し、課題点等を共有する中で、２月より記録システムの導入を開始した。

事　業　項　目	実　績
6．5S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ・利用者の生活環境等を改善するための定期点検の実施 ・職員に5S活動を啓発し実践 ・ICT活用による職員の動きやすい環境の整備	○チェック表で定期的に点検を行い、車椅子等の福祉用具の修繕や生活環境の整備を実施した。 ○記録システムを導入し、職員が効率的で働きやすい環境を整備した。
7．介護力向上プロジェクトチームの継続（*） ・認知症ケア・困りごと相談チームによるサービス及び対応力の向上 ・移乗方法検討チームによるノーリフトケアの推進	○11・2月に認知症研修を実施。個別の認知症状に合わせて個別対応を検討・実践した。 ○機能訓練指導員を中心に利用者個々に合わせたノーリフトケアを検討・実践した。

2．事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	4件	0件	4件

3．苦情受付状況

件　数	0件

み－3

＜みなかみの里ディ・サービスセンター／通所介護事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
新規契約 23 件（通常 17、認知5、予防1）、契約解除 23 件（通常 16、認知7）と、登録者の増減はなかった。大雪や新型コロナ感染症の蔓延による利用自粛などがあり、冬期間の稼働が上がらず僅かに目標に届かなかった。個別機能訓練については、居宅介護支援事業所へのPRも定着し、訓練目的の新規依頼が多かった。通常型から認知症対応型への移行も実施した。

<table>
<tr><th>事 業 項 目</th><th>実 績</th></tr>
<tr><td>

1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保
・関係機関及び地域住民へのPR効果を高め、事業所の認知度を深めるための配布物を作成
・生活相談員による居宅介護支援事業所訪問を充実させるとともに、営業活動を強化

</td><td>

<table>
<tr><td>定　員</td><td>30 人</td><td>（30 人）</td></tr>
<tr><td>稼働率（件数）</td><td>81.5%</td><td>（82.0%）</td></tr>
<tr><td>平均介護度</td><td>2.0</td><td>（2.0）</td></tr>
<tr><td>事業活動収入</td><td>79,871 千円</td><td>（79,763 千円）</td></tr>
</table>

（　）は事業目標
○関係機関へ、1ヵ月の活動予定表を毎月配布する他、活動や機能訓練の取り組みをブログ、広報誌で紹介した。（ブログ掲載 12 回、広報誌発行4回）
○居宅介護支援事業所を訪問し、お試し利用のPR、通所介護の空き情報などで利用者確保に努める他、通常型から認知症型への移行利用を提案した。（12 回）

</td></tr>
<tr><td>

2．ニーズに沿ったサービス改善やプログラムの充実を通じ、予約段階での利用者を最大限確保
・予約段階で 90%以上の予約を確保
・認知症ケアに特化したプログラムを可視化し、利用促進に向けた PR 活動を実践

</td><td>

○冬期間にかけて実人数が増えず、月初予約件数は平均で 87.7%に留まった。
○居宅介護支援事業所への訪問時、活動予定表と共に認知症対応型の活動を写真付きで紹介、PR を行った。（12 回）

</td></tr>
<tr><td>

3．機能訓練を中心とした多職種協働によるトータルサービスの実施
・アウトカム評価につながるBI評価を多職種協働で実施（年2回）
・機能訓練希望者を日常生活型、筋力維持型の視点から多職種で毎月検討し、各状態に合わせた訓練を多職種で実施

</td><td>

○機能訓練指導員と介護職員が協働し、BI評価を年2回実施した。（7月・1月）
○事業所別会議で、日常生活型や筋力維持型の視点から、機能訓練希望者の援助について検討・実施した。（12 回）

</td></tr>
<tr><td>

4．利用者ニーズに対応した訓練体制を整え、生活機能向上に効果的な機能訓練を実施
・介護職員と共に生活環境をアセスメントし、生活動作の向上を目的とした適切な訓練計画の作成・実施
・短期入所課と連携し、利用者ニーズに対応できる機能訓練の提供を検討・実施（年 12 回）

</td><td>

○個別機能訓練を開始される方や3カ月ごとの計画更新時の訪問を継続し、生活環境と動作を確認したうえで訓練計画を作成・実施した。
○機能訓練会議で検討した利用者情報を、短期入所課と共有し、より継続的で効果的に生活動作の維持・向上が図れるよう機能訓練を年 12 回実施した。

</td></tr>
</table>

事　業　項　目	実　績
５．記録システムの導入による情報の共有化と業務の効率化 ・記録システムにて、業務日誌、連絡帳、ケアプランを一体的に運用し、タブレットを使用した情報の共有化 ・ペーパーレス化による業務の効率化とコスト削減	○４月より記録システムを使用した業務日誌、７月より連絡帳の運用を開始した。タブレットとの連動により、情報共有を図った。 ○記録システムとタブレットとの連動により、記録の一元化ができ、記録業務が効率化された。また、記録のデータ管理をパソコン内で行うため、ペーパーの消費削減となった。
６．５S活動を継続し、職場内の環境改善や業務効率化を推進 ・業務内容や使用物品の見直しによる業務の効率化	○利用者が使用しやすい電気ポットを設置するなどの環境整備を行った。また、浴室や倉庫の整理を行い環境改善を図った。

２．事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	０件	２件	２件

３．苦情受付状況

件　数	０件

み－4

＜みなかみの里在宅介護支援センター／居宅介護支援事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
施設入所や死去による契約解除の他、長期入院により給付管理につながらないケースが多かったが、それを上回る新規依頼が順調にあったことで、安定した給付管理数を維持できた。上限 50 件とした予防給付は、前年より取り組んでいる地域包括支援センターへの介護給付の新規依頼と受託件数をコントロールしたことで、介護給付の安定した実績につながり、事業活動収入ともに年間目標の達成となった。

事 業 項 目	実 績
1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保 ・地域包括支援センターに積極的に介護給付の新規紹介を依頼（月1回以上）	稼働率（件数） 213.8 件/月 （210 件/月） 平均介護度 1.7 （1.7） 事業活動収入 33,924 千円 （33,129 千円） （ ）は事業目標 ○契約解除数を考慮しながら、地域包括支援センターへの新規依頼を継続実施した。 新規依頼件数 67 件（介護 54 件・予防 13 件） 契約解除数 51 件 予防から介護 12 件 介護から予防3件 ○コンスタントに新規依頼があり、安定した稼働を保つことができた。
2．特定事業所としての情報発信と、契約件数増加への取り組み ・広報誌にて特定事業所としての取り組みを発信し、相談しやすい事業所であることをPR ・独居、高齢者世帯を新たに担当する際、担当民生委員との連携とPR文書の配布による新規利用者の確保	○新規利用者用リーフレット等を用いPRに努めた。 ○新規依頼時等に民生委員に挨拶を兼ねてPR文書を渡すことで、良好な関係が築け、口コミによる利用者確保につなげることができた。
3．予防給付の取り扱い件数の適正化と、フレイル予防に向けたケアマネジメントの充実 ・予防マネジメント件数の適正化（月 50 件以下） ・フレイル予防に向けて、健康増進、栄養（食事・口腔）、運動（筋力の維持向上）、社会参加のアセスメントを強化し、プランに反映 ・フレイル予防に関する研修会を開催（年2回）	○累計 606 件、月平均 51 件。新規依頼の際はできるだけ介護給付の方をお願いした。 ○フレイル予防研修を実施し、その必要性を説明し、プランに反映させた。より利用者の課題に沿ったプラン作りができている。 ○フレイル予防研修を年2回実施した。（10 月・3月）
4．法人事業所間の連携の要として、利用者と法人事業をつなぐ取り組みの強化 ・新規利用者がサービス選定の際に法人サービスを選んでいただけるよう、必要な情報を事業所に求め提供 ・在宅サービスの利用から法人の施設入所までの流れへの積極的な関わり（紹介率 80%）	○複数の事業所を提示し選択していただいた。 ○公正中立の立場で事業所選定に関する情報を伝えつつ、法人サービスについてのPRを行った。 ○法人サービスへの紹介率 ・新規利用者で通所介護・短期入所・訪問介護の利用者：76.3%（38 名中 29 名） ・特養入所者：75.0%（12 名中9名） ・小規模多機能へ移行者：75.0%（4名中3名） ・地域や事業所指定もあり、法人事業所利用開始に結びつけられず目標値には達しなかった。

事　業　項　目	実　績
５．介護支援専門員による自己評価を実施し、質の高いケアマネジメントの実践 ・事業所別会議（週1回）と事例検討（月１回）の計画的実施による介護支援専門員の資質の向上 ・ケアマネジメント力の強化に向けた法人内サービス事業所との合同検討会の実施 ・個々に自己課題を分析し、研修計画を立案・実施 ・ケアマネジメントについての研修機会の確保	○研修計画に沿って研修を実施した。 ○関係機関が集まる地域ケア会議やケアフォーラムは感染予防対策のもと規模を縮小した活動に留まった。まちかどカフェ等での活動は休止となる。ケアマネ広場はWeb会議ツールによる開催だった。 ○３月に自己評価を実施し、今後強化すべき点を確認し、令和4年度の課題とした。
６．５S活動を継続し、職場内の環境改善や業務効率化の推進 ・記録システムと事業所間の情報閲覧システムの導入を検討	○システム導入に向けて検討を重ねたが、費用対効果が見込めず断念した。

２．事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	0件	0件	0件

３．苦情受付状況

件　数	0件

北－1

＜小規模多機能居宅介護ほのぼの北条／小規模多機能居宅介護＞

令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
平均登録者数 15.3 人、平均稼働率 81.9%、平均介護度 2.1 で稼働・収入とも目標値を下回った。新規5件・解除8件で、入院や解除が重なった8～10 月の稼働低下が年間の実績に大きく影響した。下期、新規4件あったが、目標の登録者数に届かなかった。新型コロナウイルスの影響により、予定していた事業活動の変更や中止・自粛が多かったが、感染予防対策を行いながらサービスの質の維持・向上に努めた。

事 業 項 目	実 績
1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保 ・新規登録者確保のための営業活動の実施 （地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・病院等に定期的な訪問：年 15 回） ・訪問体制強化加算の継続的な算定 （月 200 件以上）	定　員　18 人　（18 人） 稼働率（件数）　81.9%　（97.5%） 平均介護度　2.1　（1.8） 事業活動収入　38,810 千円　（44,114 千円） （　）は事業目標 ○新規5件・解除8件（特養2・老人保健施設3・死亡3）居宅介護支援事業所等への訪問は、コロナ等の影響もあり、延 10 回に止まった。 ○延訪問件数 3,184 件・月平均 265.3 件で、継続的に算定できた。
2．小規模多機能ならではの柔軟なサービス提供のPRと安定した登録者の確保 ・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・病院等へ小規模多機能の特徴をPR （年 15 回） ・地域・利用者ニーズに応じた宿泊サービスの提供	○居宅介護支援事業所等への訪問時に空き情報の提供とPRを行った（累計年 10 回） ○宿泊サービスは、土曜日のみで宿泊延人数 187 人（内：宮内宿泊 12 人）・月平均 15.6 人であった。土曜日以外に宿泊希望があった場合は本体のほのぼの宮内と連携し対応した。
3．利用者と地域資源をつなぎ調整する取り組みを通じて、その人が望む暮らしの実現の支援 ＜ADLの維持向上の取り組み＞ ・エコマップの見直しや更新（年6回） ・エコマップの作成や活用の勉強会（年1回） ・感染対策を行った上で実施可能な、地域活動への参加、訪問活動等の受け入れ ・運営推進会議の開催 ・介護者教室の開催 ・個別機能訓練の実施（年 24 件） ・余暇活動の充実	○随時、エコマップの見直しや更新を6回実施。 ○エコマップに関する勉強会を年1回実施。（9月） ○医薬神社の祭りに職員のみ参加した。訪問活動は感染症対策のため、受入れは行わなかった。 ○運営推進会議を6回（奇数月）に開催した。（通常2回・書面4回） ○介護者教室は感染症予防のため開催しなかった。 ○生活の視点で個別機能訓練を年 24 回実施した。 ○感染対策のため、屋内での活動を中心にレクレーション等の内容を工夫し、余暇活動を提供した。

事　業　項　目	実　績
4．訪問機能や宿泊率の向上など、それぞれのニーズや特色を生かした事業運営の推進 ＜様々な支援に対応できるよう、事業所としての対応力向上及び職員個々のスキルアップ向上＞ ・訪問機能強化のため利用者ニーズのアセスメント ・人材育成に向け外部・法人内研修へ参加（年４人） ・介護技術研修会の実施（年3回） ・認知症ケア学習会及び検討会の実施（年3回）	○利用者ニーズのアセスメントを更新認定や新規受入れ時に行い訪問機能を強化した。 ○外部研修へ2名参加した。（安全運転管理者講習会・介護支援専門員更新研修） ○介護技術研修会を3回実施。（6・9・10 月） ○認知症ケア研修会を3回実施。（6・9・10 月）
事　業　項　目	実　績
5．5S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ・設備・備品の維持管理及び環境整備の実施 ・業務の効率化の実施	○担当を決め事業所内外の環境整備を実施した。 ○記録等の整備・整理を実施した。

2．事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	0件	0件	0 件

3．苦情受付状況

件　数	0件

北－2

＜ヘルパーステーション北条／訪問介護事業＞

令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
一日あたり平均 14.1 人で、年間の目標稼働率・収入には届かなかったが、新規 40 件・解除 20 件で昨年度より、新規利用者を多く受入れることができた。9月より、常勤職員1名・パート職員1名が増えたことで、新規利用者の受入れが可能になり、下期から実績は少しずつ伸び、実利用者数も平均 65.1 人と増加した。年度当初より、業務の効率化のため、介護記録システムの導入を検討し、2月から導入・実施している。今後、記録業務の簡素化・効率化につなげていきたい。

事 業 項 目	実 績
1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保 ・訪問可能な曜日・時間帯等、より具体的な情報の提供（毎月）	稼働率（件数） 14.1 件 （16.4 件） 平均介護度 1.1 （1.3） 事業活動収入 19,102 千円 （22,842 千円） （ ）は事業目標 ○毎月、居宅介護支援事業所等へ訪問が可能な曜日・時間の情報提供を行った。
2．介護保険と保険外サービスを柔軟且つ適正に組み合わせた、利便性の高いサービスの提供 ・保険外サービスのPRや空き情報の提供	○居宅介護支援事業所へ実績配布時に、空き情報と保険外サービスのPRを行った。
3．特定事業所としての取り組みを積極的に情報発信することによる新規利用者の確保 ・居宅介護支援事業所等への服薬状況・口腔ケア等に関する情報の提供	○サービス担当者会議や毎月のモニタリングで居宅介護支援事業所等へ服薬・口腔ケア状況の情報提供を行った。
4．二つの出張所を活用した、効率的で利便性の高い事業運営の推進 ・出張所を活用した効率的な訪問の実施	○妙高の里は出張所の拠点として、十分に活用できているが、名香山苑の出張所は、主に一時的な立ち寄りに止まった。
5．様々な障がい種別に対応するための訪問介護員の個別研修の充実 ・自立支援・介護予防に関する研修実施（年1回） ・障がい者特有の疾病に関する研修実施（年1回） ・同行援護従事者養成研修への受講（年1名） ・認知症ケアに関する研修の実施（年2回） ・服薬管理・口腔ケアに関する研修実施（年1回）	○年間計画に基づき研修を実施した。 自立支援・予防に関する研修：1回（8月） 障がい者特有の疾病に関する研修：1回（10 月） 同行援護従事者養成研修：1 名 認知症に関する研修：2回（9・3月） 服薬管理・口腔ケアに関する研修：2回（6・3月）
6．5S活動の取り組みを継続し、職場内の環境改善や業務の効率化の推進 ・職場内環境の整備と業務の効率化 ・介護記録等の見直しの検討	○業務の効率化のため、パソコン内・個別ケース等の整理を行った。 ○介護記録の見直しを検討し、2月に介護記録システムを導入した。

2．事故発生状況

項 目	介護医療	その他	合 計
件 数	0件	0件	0件

3．苦情受付状況

件 数	0件

北－3

＜有料老人ホームあっとほーむ北条／有料老人ホーム事業＞

令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
新規入居4件・退居6件あったが、年間稼働率・収入ともほぼ目標値どおりとなった。年々、入居者の高齢化・重度化が進み、入院後に身体状況の変化により退居されることが増えている。服薬管理などのぬくもりサービスも増えてきている。入居問い合わせが 28 件と多く、昨年度より増加した。12 月に浴槽の改修工事を行い、より安全・安心な入浴を提供できた。

事 業 項 目	実 績
1．稼働率の維持向上と安定的な収益確保 ・居宅介護支援事業所等に定期的に訪問し、空き情報の提供（毎月）	定員 20 人 （20 人） 稼働率（件数） 95.0% （95.0%） 平均介護度 ― ― 事業活動収入 31,146 千円 （31,063 千円） （ ）は事業目標 ○定期的に居宅介護支援事業所等へ空き情報を提供し、年間 28 件の問合せがあった。
2．空床期間の短縮を図るため、待機者確保に向けた広域的な営業活動の強化 ・稼働率向上と待機者確保のため、上越地域への営業活動の実施（年4回）	○妙高市内の居宅介護支援事業所等へ毎月訪問し、空き情報を提供したが、新型コロナウイルスの関係から、上越地域への営業活動は2回に止まった。
3．法人サービス事業の利用を促進し、入居者に安全で充実した日常生活の提供 ＜入居者の社会的孤立感解消や心身機能維持＞ ＜家族や関係機関との連携のための活動＞ ・ボランティアによる集団活動の実践（年6回） ・受診や往診に同行し、身体状況の把握と家族や関係機関への情報提供と連携 ・家族・関係機関との連携 ・TLSSサービスの支援や法人内サービスの利用の提案	○新型コロナウイルスの感染予防の観点から、ボランテイアの受け入れは中止した。 ○定期往診に同行し、家族・関係機関等に情報提供した。 ○サービス担当者会議には毎回参加し、情報提供・共有を図った。 ○TLSSは年間 2,272 件で服薬管理が増えてきている。その他、ワクチン接種の同行や個々の状態に応じ支援することができた。
4．5S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ・共有スペースの点検・整備（年2回） ・建物外部の美化や屋上排水の整備（年2回）	○エアコン等の点検・整備：2回 ○草取り・草刈り、屋上排水溝の清掃：2回（春・秋）
5．新しい生活様式下での地域とのつながりを確保する方策の検討・実施（*） ・地域行事等への参加（年3回） ・災害時に備え、地域と連携した防災訓練の実施	○医薬神社の祭りに職員のみ2回参加した。 ○総合防災訓練を2回実施した。感染症予防の観点から地域の参加はなかった。
6．高齢化・重度化に対応するため、疾患に対する知識向上と緊急時における対応力の向上（*） ・入居者に多い疾患に関する研修の実施（年2回） ・緊急時に対応するための研修の実施（年1回） ・認知症ケアに関する研修の実施	○入居者に多い疾患に関する研修：1回（4・8月） ○緊急時の対応に関する研修：1回（10 月） ○認知症に関する研修（8月）

事　業　項　目	実　績
7. サービス向上のための施設・備品の整備(*) ・安全・安心な入浴環境の整備	○浴槽が深く出入りに支障があったことから、快適に入浴できるよう、12 月に浴槽を改修した。

2. 事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	1件	0件	1件

3. 苦情受付状況

件　数	0件

ゆ－1

＜地域密着型介護老人福祉施設ゆきのみや／介護老人福祉施設事業＞

令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
入所5名・退所5名で、退所から入所までの平均空所期間は、6.6 日となった。年間稼働率 94.4%で稼働・収入とも目標値には届かなかった。年度当初より、入院が多く、実入院者数 10 人・延入院日数 343 日で、前年より大幅に増加した。誤嚥性肺炎での入院は2名で少なかったが、他の疾病での長期入院者が多く、稼働・収入に大きく影響した。10 月より、誤嚥性肺炎の予防・口腔機能維持・向上のため、歯科医師による検診を実施し、指導・助言のもと多職種共同で口腔ケアの充実に取り組んだ。感染防止対策により、面会ができない状況ではあるが、窓越し面会、リモート面会等のほか、家庭連絡に積極的に取り組むことができた。

<table>
<tr><th>事業項目</th><th>実績</th></tr>
<tr><td>

1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保
・施設内他事業所との連携
・入所待機者の確保のため、訪問活動の実施
（居宅介護支援事業所・病院等に定期的に訪問）

</td><td>

<table>
<tr><td>定　員</td><td>18 人</td><td>（18 人）</td></tr>
<tr><td>稼働率（件数）</td><td>94.4%</td><td>（98.5%）</td></tr>
<tr><td>平均介護度</td><td>4.4</td><td>（4.3）</td></tr>
<tr><td>事業活動収入</td><td>92,785 千円</td><td>（94,609 千円）</td></tr>
</table>

（　）は事業目標
○多機能介護課と連携し、特養入所希望者がスムーズに入所できるよう取り組んだ結果、新規入所者5名中2名が小規模多機能の利用者だった。
○随時、訪問・電話で居宅介護支援事業所・病院・グループホーム・老人保健施設等に特養入所希望者の情報収集を行う。

</td></tr>
<tr><td>

2．入院日数と新規入所に係る空床期間の短縮
・空床発生時の速やかな対応
（退所から入所までの期間を7日以内）
・誤嚥性肺炎を予防

</td><td>

○入所者の状態（看取り期）に合わせ、次の入所候補者を選定し入所準備を進めた。入所5件・退所5件。平均空床日数は 6.6 日で目標を達成できた。
○10 月より、歯科医師による歯の検診を実施。歯科医師等の指導のもと口腔ケアの充実に取り組んだ。誤嚥性肺炎での入院は2名だった。

</td></tr>
<tr><td>

3．つなぎ・つながるサービス体系の積極的な情報発信
・法人内他事業所との連携

</td><td>

○つなぎ・つながる会議での連携強化により、新規入所者5名中4名が法人内事業所からの入所となった。（ほのぼの宮内2名、あっとほーむ北条2名）

</td></tr>
<tr><td>

4．身体拘束廃止・虐待防止の取り組みを徹底し人権尊重と利用者本位の介護サービスの提供
・身体拘束廃止、虐待防止、人権擁護に関する研修の実施（年2回）
・利用者本位のサービス提供の充実
・多職種協働による食事・口腔ケアの充実
・看取り介護の質の向上のため研修や退所家族へのアンケート調査の実施

</td><td>

○全体研修として2回実施した。（6・10 月）
○毎月のユニット会議で 24 時間シートを見直し、個々の状態に沿った支援を行い、利用者本位のサービス提供の充実を図った。
○10 月より歯科医師による歯の検診を実施。歯科医師等の指導のもと口腔ケアの充実に取り組んだ。
○退所者5名の内、施設内で看取りを行った方3名に対してアンケートを実施した。

</td></tr>
</table>

事業項目	実績
5. 介護ロボット等による入所者の重度化対応と生活の質の向上 ・福祉用具の活用や機能訓練の多職種協働での実践	○みなかみの里の機能訓練指導員より、巡回指導を定期的に受け、入所者の身体状態に合わせた機能訓練プログラムに基づき、機能維持に努めることができた。
6. 科学的根拠や実践効果が認められた質の高い認知症ケアの提供 ・認知症に関する研修の実施（年2回）	○認知症に関する研修を2回実施した。（6・10 月）
7. 感染対策の継続と新しい生活様式下で家族や地域とのつながりを確保する方策の検討と実践 ・面会や家庭連絡の方法について検討・実践 ・地域活動、行事への参加の検討・実践	○面会については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、窓越し面会・面接室での面会等、臨機応変に対応した。Wi-Fi環境を整えリモート面会の準備を行った。家庭連絡についてはこまめに行った。 ○予定していた地域活動・行事の自粛・中止が多かったが、感染状況を踏まえながら、4月：雪森地区クリーンパートナーに参加した。7・10 月：家族ボランティア（園内草刈り・園外清掃・窓ふき等）を実施した。
8. 5S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ・設備・備品の維持管理及び環境整備の実施 ・介護記録等のペーパーレス化の検討	○各ユニットに福祉用具担当者を配置し、車椅子・ベッド等の福祉用具を安全・快適に使用できるように毎月点検を行った。 ○新たな加算算定に必要な書式と他の介護記録の整理を行い、介護記録のペーパーレス化につながった。
9. サービス向上のための施設・備品等の整備（*） ・安全・安心な入浴環境の整備	○入所者の重度化が進み、安全・安心な入浴を提供するため、家庭浴にリフト浴を導入する。（12 月）導入後は、快適な入浴が提供できている。

2. 事故発生状況

項 目	介護医療	その他	合 計
件 数	1件	0件	1件

3. 苦情受付状況

件 数	0件

ゆ－２

＜小規模多機能居宅介護ほのぼの宮内／小規模多機能居宅介護＞

令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
平均登録者数 20 人・平均稼働率 78.6%・平均介護度 2.0 で稼働・収入とも目標値を下回った。新規4件・解除5件で、入院や解除が重なった9～11 月の稼働低下が年間の実績に大きく影響した。昨年度より取り組んでいる宿泊率の向上については、宿泊ニーズに応じて年間で安定した稼働を維持することができた。3月に職員1名が、新型コロナウイルスに感染し、通所事業を6日間休止した。保健所の指示のもと感染対策を行い、他の職員・利用者にまん延することはなかった。新型コロナウイルスの影響により、行事等の変更や中止・自粛が多かったが、利用者の皆さんに楽しんでいただけるように、日々のレクレーション等の充実に努めた。

<table>
<tr><th>事 業 項 目</th><th>実 績</th></tr>
<tr><td>

1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保
・新規利用者受入れのため、通い人数の適正化の実施
・ケアマネ広場等への参加（年4回）

</td><td>

<table>
<tr><td>定　員</td><td>25 人</td><td>（25 人）</td></tr>
<tr><td>稼働率（件数）</td><td>78.6%</td><td>（84.0%）</td></tr>
<tr><td>平均介護度</td><td>2.0</td><td>（2.0）</td></tr>
<tr><td>事業活動収入</td><td>55,270 千円</td><td>（58,990 千円）</td></tr>
</table>

（　）は事業目標

〇新規4件・解除5件
（特養2、グループホーム1、死亡2）通い定員を意識しながら、新規受入れを行った。
〇新型コロナウイルスの影響等により参加なし。

</td></tr>
<tr><td>

2．小規模多機能ならではの柔軟なサービス提供のPRと安定した登録者の確保
・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・病院等へ小規模多機能の特徴をPR（年 15 回）

</td><td>

〇小規模多機能のパンフレットとしおりを活用し、地域包括支援センター等に訪問しPRを行った。（年 15 回）

</td></tr>
<tr><td>

3．利用者と地域資源をつなぎ調整する取り組みを通じ、その人が望む暮らしの実現の支援
＜ADLの維持向上の取り組み＞
・エコマップの見直しや更新（年8件）
・エコマップの作成や活用の勉強会（年1回）
・感染対策を行った上で実施可能な、地域活動への参加、訪問活動等の受け入れ
・運営推進会議の開催
・介護者教室の開催
・個別機能訓練の実施（年 24 件）
・余暇活動の充実

</td><td>

〇全利用者のエコマップの見直し及び更新を行った。（21 件）
〇エコマップに関する勉強会を1回実施した。（10 月）
〇予定していた地域活動・行事の自粛・中止が多かったが、感染状況を踏まえながら、4月に雪森地区クリーンパートナーに参加した。感染予防のため、訪問活動の受け入れは行わなかった。
〇運営推進会議を6回(偶数月)に開催した。（通常3回・書面3回）
〇介護者教室は、感染症予防のため開催しなかった。
〇生活の視点に立った個別機能訓練を 32 回実施。
〇今年度は、季節ごとに立体的な壁面づくりに取り組み、皆さんに楽しんでいただいた。

</td></tr>
</table>

事　業　項　目	実　績
4．訪問機能や宿泊率の向上など、それぞれのニーズや特色を生かした事業運営の推進 ＜様々な支援に対応できるよう、事業所としての対応力の向上と職員個々のスキルアップを図る＞ ・人材育成のため、外部・法人内研修へ参加（年4名） ・介護技術研修会の実施（年1回） ・認知症ケア学習会等の実施（年1回） ・内部、外部評価の受審。（年2回） ・サテライト事業所との連携	○外部・法人内研修に2名参加した。（介護支援専門員専門研修Ⅱ・救命救急講習） ○介護技術研修を1回実施した。（10 月） ○認知症ケア研修を1回実施した。（7月） ○外部評価を9月に受審し、内部評価を2月に実施した。 ○今年度、サテライト事業所からの宿泊ニーズが 12 泊分あり対応した。
5．5S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ・設備・備品の維持管理及び環境整備の実施 ・業務の効率化の実施	○収納場所の整理や送迎時の備品（踏み台、雨具）を整備した。 ○記録の保管場所を定期的に整理し、個人情報の管理を徹底した。

2．事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	0件	0件	0件

3．苦情受付状況

件　数	0件

丘-1

＜地域密着型介護老人福祉施設みのりの丘中郷/介護老人福祉施設事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
平均稼働率 98.7%、平均介護度 4.3 となった。入院はなかったが、入退所が例年より多かったことが影響し稼働目標は達成できなかった。退所者 12 名全員が施設での看取りを希望されたため、嘱託医と連携し適切に対応し、看取りアンケートでは全て「満足」との回答があった。誤嚥性肺炎予防のための姿勢保持の見直しや、口腔ケアの取り組みを徹底し肺炎による入院はなかった。また、地域交流は、感染症対策により中止した。新しい生活様式の感染症対応を継続しながら、地域に開かれた施設づくりを再構築する必要がある。

<table>
<tr><th>事 業 項 目</th><th>実 績</th></tr>
<tr><td>

1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保
・誤嚥性肺炎、嚥下機能低下の予防のための口腔ケアの充実

</td><td>

<table>
<tr><td>定　員</td><td>29 人</td><td>（29 人）</td></tr>
<tr><td>稼働率（件数）</td><td>98.7%</td><td>（99.0%）</td></tr>
<tr><td>平均介護度</td><td>4.3</td><td>（4.3）</td></tr>
<tr><td>事業活動収入</td><td>156,103 千円</td><td>（156,358 千円）</td></tr>
</table>

（　）は事業目標
○歯科衛生士による定期的な口腔ケアを継続し、1月に歯科医師による歯科検診を実施した。
○歯科衛生士と連携し、嚥下機能の維持管理・口腔ケアの充実に努めた。

</td></tr>
<tr><td>

2．入院日数と新規入所に係る空床期間の短縮
・空床発生時の速やかな対応
（空床期間7日以内）
・歯科医師及び歯科衛生士との連携による口腔衛生管理の実施

</td><td>

○入退所は 12 件で、例年の倍以上であったことから入退所が重なったこと、また、感染症対策により老人保健施設との調整に時間がかかったケース等があり、平均空床期間は 11.4 日となった。
○口腔衛生等健康管理を徹底した結果、誤嚥性肺炎の発生はなく、その他事由も含め入院はなかった。

</td></tr>
<tr><td>

3．つなぎ・つながるサービス体系の積極的な情報発信
・入所待機者をスムーズ受入れすることを目的とした「つなぎ・つながる会議」の活用（月2回）
・サービスの強みの発信

</td><td>

○課長会議をつなぎ・つながる会議とし、月2回開催した。施設内での次の候補者の情報交換を行い、円滑な入所につながった。
○ブログは広報委員会を中心に随時掲載し、広報誌の発行も定期的に行った。

</td></tr>
<tr><td>

4．身体拘束廃止及び虐待防止の取り組みを徹底し人権尊重と利用者本位の介護サービスの提供
・適切なケアを提供するための自己チェックの実施や研修会の開催（年2回）
・入所者及び家族の意向や要望について、積極的に聞き取りの実施（月1回）
・ユニット会議やケア検討会議を活用しながら、取り組むべき内容について検討・周知の実施
・生活の場としてのサービス提供（入浴・食事・排泄）の在り方を見直し、手順書の更新（年1回）
・入所者と家族の思いを受け止め希望に沿った看取りケアを行うための研修の実施（年1回）
・退所後アンケートの実施

</td><td>

○「身体拘束廃止に関する研修」「虐待防止に関する研修」を年2回実施した。（4月・10 月）
○毎月の家族への定期連絡の際に、意向や要望を確認した。（月1回）
○ユニット会議を中心に、ケア内容などに関する情報交換を行った。
○サブリーダーを中心に手順書の修正を年1回実施した。
○看取り期の対応に関する研修会を年1回実施した。（10 月）
○今年度退所した 12 名に対して退所後のアンケートを行った。（回収率 100%・満足度 100%）

</td></tr>
</table>

事 業 項 目	実 績
5．介護ロボット等による入所者の重度化対応と生活の質の向上 ・入所者の状態に合わせた、より適切な介護機器の活用についての検証 ・機能訓練や口腔、栄養など専門職との連携	○入所者の重度化の進行に合わせ、体位交換用枕や車椅子用クッションの検討を行いベッド上や食事の際の姿勢保持等の見直しを行った。座位姿勢を保持しやすいフルリク式車椅子の導入を進めた。 ○多職種協働で、状態変化に伴う移乗動作・ポジショニング等の介護方法を見直した。入所者の入れ替わりによる必要な介護機器の変更をスムーズに実施した。
6．科学的根拠や実践効果が認められた質の高い認知症ケアの提供 ・嘱託医や受診している専門医との連携 ・ユニットケアの利点である、日々の観察結果（24時間シート）に基づいた、寄り添いながら個別状態に応じたサポートの実践 ・認知症ケア研修会及び検討会を開催（年２回）	○外部の専門医に継続的に受診し連携した。 ○困難事例について、多職種協働でケア検討やユニット会議等で検討・情報共有した。 ○認知症の種類や対応方法に関する認知症ケア研修を年2回実施した。（10 月・11 月）
7．感染症対策の継続と新しい生活様式下での家族や地域とのつながりを確保する方策の検討と実践 **＜ほのぼの中郷・グループホームあすなろ・えんじゅの郷共通＞（*）** ・中郷区内で行われるエコウォークに参加（年２回） ・ボランティアや地域との関わりについてソーシャルディスタンスに配慮した新たな形を検討し実践 ・地域サロンへ参加することで、施設、利用者、地域とのつながりの継続（年４回） ・多様な地域のニーズに対応するために、困りごと相談所を定期的な開催(年 12 回)	○感染症対策のもと中郷区のエコウォークに年２回参加した。（4/17：12 名、10/16：８名）感染症対策のため、地域交流を兼ねた行事や園内へのボランティアの受け入れ、介護者教室等は中止とした。 ○地域ケア推進会議など、地域で開催され参加できる会議等には、参加者を限定し可能な限り参加し、情報収集に努めた。 ○畑のボランティア等、入所者と直接関わらない形で地域の方と交流した。（3団体：延べ 43 人） ○地域サロンへの参加は、上越地域のコロナ感染が収束しなかったことから、参加を見合わせた。 ○困りごと相談所を年 12 回開催したところ1件の困りごと相談があり、内容は入所サービスに関することだった。
8．5S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ・事業所内環境を定期的に点検し安全に安心して過ごせる環境整備と業務の効率化 ・ペーパーレス化の検討及び入力作業の見直しを行い作業効率の改善	○5S活動を中心としたユニット設えや、入所者、家族へのアンケートの実施、手順書の見直し、備品等の管理など、それぞれに担当者を決め、環境や業務改善を行った。

2．事故発生状況

項 目	介護医療	その他	合 計
件 数	1件	0件	1件

3．苦情受付状況

件 数	0件

丘-2

＜小規模多機能型居宅介護事業所ほのぼの中郷／小規模多機能型居宅介護事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
昨年度からの課題であった、登録率及び平均介護度の向上について、新規依頼先の開拓と適正な介護度につなげるための認定調査への立ち合い等の取り組みを継続して実施したが、平均登録者は 22.0 人と目標達成できなかった。特養やグループホームへの入所や、重度の方の利用が入院等で安定せず、死去（4名）・特養（2名）・グループホーム（2名）・転居（2名）となり稼働に影響した。

事 業 項 目	実 績
1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保 ・地域包括支援センターや居宅介護支援事業所へ訪問し、説明や利用案内の実施（年 40 件） ・施設内の他事業所との連携を図るための、「つなぎ・つながる会議」を活用した情報共有（月2回）	定　員　29 人　（29 人） 稼働率（件数）　74.3%　（82.0%） 平均介護度　1.8　（1.9） 事業活動収入　55,978 千円　（62,063 千円） （　）は事業目標 ○空き情報を提供するとともに、地域包括支援センターや居宅介護支援センター等と連携を図りながら、独居の方の支援や日常生活などについて調整を行った。（年 35 件） ○課長会議をつなぎ・つながる会議と位置付け、情報交換・連携を月2回行った。
2．小規模多機能ならではの柔軟なサービス提供のPRと安定した登録者の確保 ・家族や関係機関に小規模多機能の通いから泊り、訪問にいたる柔軟なサービス切り替え体制の説明（年 24 回）	○問い合わせのあった方については、サービスの特性を説明し円滑な利用につなげた。 ○定期的な訪問を行い、サービス量の調整と利用者の身体状況確認や家族との顔の見える関係作りを年 24 回行った。
3．利用者と地域資源をつなぎ調整する取り組みを通じた、その人が望む暮らしの実現の支援 ・ニーズ把握のための定期的なアセスメントの実施 ・サービス改善会議を開催した情報共有（年 12 回） ・エコマップの作成により地域を取り巻く環境調査及び居宅サービス計画・小規模多機能型居宅介護計画の作成（年8件） （＊地域交流についてはみのりの丘中郷で記載）	○利用者ニーズを把握するため、利用者や家族との情報交換を行った。 ○毎月の事業所別会議の中にサービス改善会議を位置付け、利用者個々の情報共有を図った。（年 12 回） ○エコマップの作成を継続的に実施し、地域資源や環境などの要素を通じて利用者を中心として検討を行い、介護計画の立案に活かした。（年8件）
4．訪問機能や宿泊率の向上など、それぞれのニーズや特色を生かした事業運営の推進 ・訪問機能や通い短時間利用を活用した柔軟なサービスの提供及び宿泊機能をPRし、活用の推進（宿泊率 55%） ・内部、外部評価を行いサービス内容の見直し（年2回） ・職員の経験や適性に沿った外部研修や法人内研修の実施（年8名） ・介護技術研修会の実施（年4回） ・認知症ケア研修及び検討会の実施（年4回） ・資格取得していない職員について、認知症介護基礎研修の受講（年2名）	○午前のみ・午後のみの利用や夕方から泊まりサービスを利用していただくなど、状況に合わせて柔軟なサービス提供を行った。（宿泊率 50.7%） ○内部、外部評価を実施・受審しサービス内容の見直しを年2回行った。 ○外部研修については参加なし。法人内研修は年2名参加した。 ○介護技術研修を年4回実施した。 ○認知症ケア研修及び検討会を年4回実施した。 ○認知症介護基礎研修については、実務者研修受講希望があり受講しなかった。

事　業　項　目	実　績
５．５S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ・事業所内環境を定期的に点検し、快適で安全に過ごせる環境整備と業務の効率化 ・業務の効率化とペーパーレス化の検討	○書類整備と必要備品の購入を勧め、環境整備を行った。 ○ワイズマンを使用した介護記録を実施し、入力作業の見直しを行った。

２．事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	２件	０件	２件

３．苦情受付状況

件　数	０件

丘-3

＜グループホームあすなろ／認知症対応型共同生活介護事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
入退所は6件で、そのうち3件は看取りの希望があり、かかりつけ医と連携し実施したが、全体に安定した稼働となり稼働目標は達成した。退所による空床が 29 日発生しており、事前に候補者を確保するとともに、施設内他事業所と連携したことで、年間の平均空床期間は 4.8 日となり目標を達成することができた。介護度の高い方が特養へ2名入所したが、介護量に応じて区分変更を行い平均 2.3 と安定した。認知症高齢者の対応力強化のため、Web等活用し認知症ケアの研修会を開催し、内部研修に力を入れた。

事 業 項 目	実 績
1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保 ・空床発生時の速やかな対応 （退所から入所までの空床期間7日以内） ・施設内の他事業所と連携を図り、受け入れをスムーズに行うための「つなぎ・つながる会議」を活用した情報共有（月2回）	定　員　18 人　（18 人） 稼働率（件数）　99.1%　（99.0%） 平均介護度　2.3　（2.0） 事業活動収入　84,158 千円　（82,860 千円） （　）は事業目標 〇6名の退所があり、退所による空床が 29 日発生した。施設内他事業所と連携し、平均空床期間が 4.8 日となり目標を達成した。入院は1名 27 日だった。 〇課長会議をつなぎつながる会議と位置づけ月2回開催し、施設内での候補者の情報交換を行った。
2．安定した稼働を維持するため、待機者確保に向けた幅広い営業活動の実践 ・定期的に上越市内の病院・居宅介護支援事業所等への情報提供と、入所待機者の確保（年4回） ・施設内・法人内の他事業所との連携による住み替え希望者の情報共有（月2回）	〇地域連携室（4事業所）、居宅介護支援事業所（7事業所）に情報提供を年4回行った。 〇つなぎ・つながる会議において、住み替え等の希望のある方の情報共有を月2回行った。その結果、グループホームから特養へ入所した方が2名、小規模多機能と通所介護からグループホームに入所した方がそれぞれ2名あった。
3．認知症ケアの先進事例から積極的に学び、認知症の専門事業所として質の高いサービスの提供 ・認知症ケアの質を高めるため、定期的な学習会・研修会の実施（年6回） ・外部研修、Web研修の参加により専門知識の習得を図り、認知症高齢者の対応力の向上（年2名以上） ・自己評価に基づくサービス改善（年2回）	〇接遇、感染症予防、防災に関する緊急時の対応についての研修の他、認知症ケアの研修会を年6回実施し、専門知識の習得に努めた。 〇認知症高齢者の対応力の向上を目的にWeb研修に年2名参加した。 〇常勤職員を対象に、外部評価項目に基づく自己評価を年2回行った。評価内容については運営推進会議に報告し、意見をもらい来年度の計画に反映した。

事　業　項　目	実　績
4．感染症対策の継続と新しい生活様式下での家族や地域とのつながりを確保する方策の検討と実践 ・利用者ニーズに対応した地域交流の実施 （＊地域交流についてはみのりの丘中郷で記載）	○感染症対策のため、地域交流を兼ねた行事は中止した。 ○入所者との交流はできないが、ボランティアと職員とで畑作業を実施し、交流を行った。 ○中郷保育園・中郷小学校よりタオルを預かり、入所者が雑巾を縫い渡した。子供たちよりお礼状が届き交流を深めた。 ○9月に生活の様子の写真と本人からの一言を添えた手紙を作成し、家族へ郵送した。 ○12 月に家族や知人宛てに年賀状を作成し、正月明けにはたくさんの年賀状の返事をいただくことができ、入所者の張り合いとなった。
5．5S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ・生活の場としてのサービス提供の在り方についての見直しの実施 ・事業所内環境を定期的に点検し、快適で安全に過ごせる環境整備、及び業務の効率化 ・書類等のペーパーレス化の検討と作業効率改善のための入力作業の見直し	○介助バー、コールマット等の使用状況と在庫確認を行い、備品整理と点検を行った。KYT研修を行い、危険個所を点検確認し、環境整備につなげた。 ○浴室の定期点検や、共有スペースの空調（エアコン）の掃除を行った。食事前の手洗いの支援、換気、加湿、消毒を徹底し感染症予防に努めた。 ○ふれあい食簿の見直しや加算取得のための帳票等を見直し作業効率を上げた。事業所内研修では、動画共有サービスを活用した。

2．事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	2件	0件	2件

3．苦情受付状況

件　数	0件

丘-4

＜えんじゅの郷デイサービスセンター/通所介護事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
感染症対策に努めたが、後期コロナを理由としたキャンセルが多かったこと、施設入所や死去が例年より多かったこともあり稼働が安定せず稼働・収入とも目標を達成できなかった。機能訓練については、栄養と個別機能訓練を連動させ、より効果の高い訓練を実施し利用者から好評を得た。認知症対応型については、認知症ケアに特化したプログラム提供により、通常型から認知症対応型への移行を進めた。基準該当生活介護については、定期的に1名の利用があった。記録システムの導入による情報の共有化と業務の効率化を進め、業務日誌や連絡帳をシステムに移行した。

<table>
<tr><th>事 業 項 目</th><th>実 績</th></tr>
<tr><td>

1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保

・居宅介護支援事業所等へ訪問する際の年間・月間予定表の配布や広報誌を活用したPRの実施（毎月）

・施設内の他事業所との連携を図るための、「つなぎ・つながる会議」を活用した情報共有（月2回）

</td><td>

<table>
<tr><td>定　員</td><td>30 人</td><td>（30 人）</td></tr>
<tr><td>稼働率（件数）</td><td>77.3%</td><td>（80.7%）</td></tr>
<tr><td>平均介護度</td><td>1.8</td><td>（1.8）</td></tr>
<tr><td>事業活動収入</td><td>67,636 千円</td><td>（71,053 千円）</td></tr>
</table>

（　）は事業目標

○毎月の事業所訪問を行ない、利用者状況報告や空き状況を伝えた。利用者にも新規紹介を依頼した。お試し利用案内、利用案内（パンフレット）をリニューアルし、事業所訪問の際に配布した。12 件のお試し利用があり 10 件利用に結びついた。

○課長会議をつなぎ・つながる会議と位置づけ、情報交換・連携を月2回実施した。小規模多機能事業所へ2名、グループホームへ2名、特養へ2名の計6名の方をつなぐことができた。

</td></tr>
<tr><td>

2．ニーズに沿ったサービス改善やプログラムの充実を通じ、予約段階における利用者の最大限の確保

・事業所別会議等で事業所の強みを生かしたサービス改善やプログラムの見直しの検討（月 1 回）

・速やかなキャンセル処理、新規獲得、利用回数増の提案により、月初の予約件数の 90%稼働の確保

</td><td>

○機能訓練会議、認知症対応型会議を毎月実施し、サービス改善やプログラムの検討を行った。

○トータルヘルスサポートシステムを導入し、業務の効率化・ICT化を図り、新しい活動の創設と提供を行った。

○月初の予約件数については、家族等の新型コロナウイルス感染症の発生に関連したキャンセルや利用控えもあり、年平均で87.5%と目標には届かなかった。

</td></tr>
<tr><td>

3．機能訓練を中心とした多職種協働によるトータルサービスの実践

・機能訓練・口腔・栄養の連携を強化した一体的な運用

</td><td>

○身長・体重測定を実施し、栄養指標のBMIを確認することで、機能訓練指導員・管理栄養士・介護支援専門員と情報共有した。

</td></tr>
<tr><td>

4．利用者ニーズに対応した訓練体制の確立と生活機能向上に効果的な機能訓練の実践

・より生活に適した訓練の多職種での実施

・心身機能向上のための活動を計画・実施し、利用者満足度の向上

・定期的に機能訓練会議を開催し情報共有・研修の実施（月1回開催）

</td><td>

○毎月、機能訓練会議を実施し訓練内容を多職種で共有した。

○在宅生活状況を把握するため自宅訪問し、アセスメントを実施した。

</td></tr>
</table>

事　業　項　目	実　績
5．記録システムの導入による情報の共有化と業務の効率化 ・介護記録ソフトを導入し、業務日誌・連絡帳・ケアプラン等の記録の移行	○4月に業務日誌、7月に連絡帳をシステムに切り替えた。システム活用の習熟度を上げるための勉強会を定期的に行った。来年度システムに移行予定のケアプランについて、記録方法の検討会を3月に実施した。
6．5S活動を継続し、職場内の環境改善や業務の効率化の推進 ・事業所内環境の定期的な点検による、快適で安全に過ごせる環境整備と業務の効率化	○定期点検を行い、環境整備を行った。 ○玄関にシューズトレイの設置や休憩室に棚の設置等行い安全・衛生的な環境整備を行った。 ○介護用品の更新を順次実施した。
7．認知症への対応力向上に向けた取り組みの推進(*) ・認知症状の進行を予防するための活動の実施 ・外部研修や内部研修を通じた職員の認知症高齢者への対応力向上（内部研修：年2回）	○個々の状態にあった対応を専門的な視点からアプローチする取り組みを検討し、複合的な活動（二重課題活動）を取り入れ、心身の活性化に努めた。 ○新型コロナウイルス感染症対策のため、外部研修の参加は見合わせた。認知症高齢者への対応力を高めるための内部研修を年2回実施した。

2．事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	0件	0件	0件

3．苦情受付状況

件　数	0件

妙－1

＜妙高の里デイサービスセンター／通所介護事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
上半期は新規利用者が増加傾向にあり稼働率が上昇傾向にあったが、下半期には例年にない大雪となったことで、短期入所や施設入所等への移行者が増加し解除者も増加した。さらに大雪による当日キャンセル数が過去最高となり稼働率は低下した。結果として年間平均は令和2年度と同等数となり伸び悩んだ。業務内容については記録システムを導入し、業務日誌・連絡帳などを移行したことで業務の効率化を図ることができた。12 月に令和4年度から事業休止を予定している妙高地区の通所介護事業所から、休止に伴う利用者受入の依頼があり、法人内通所介護事業所とも協力し全ての利用者がスムーズに移行できるように調整を開始した。

<table>
<tr><th>事 業 項 目</th><th>実 績</th></tr>
<tr><td>

1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保

・全職員対象として、妙高地区で介護が必要な方の情報が入った場合、自宅へ出向き、事業の実施状況等、パンフレット等を用いてPRし、介護申請につなぐ取り組み（随時）

・体験利用の対象者を 65 歳以上の方等に拡大し、体験利用を促進（月１名以上）

</td><td>

<table>
<tr><td>定　員</td><td>32 人</td><td>（32 人）</td></tr>
<tr><td>稼働率（件数）</td><td>73.3%</td><td>（75.0%）</td></tr>
<tr><td>平均介護度</td><td>2.4</td><td>（2.1）</td></tr>
<tr><td>事業活動収入</td><td>74,334 千円</td><td>（79,990 千円）</td></tr>
</table>

（　）は事業目標

○新規申請の掘り起こしのため、4月に令和3年度版パンフレットを作成し、6月に利用者3部・介護支援専門員5部・職員5部ずつ配布した。その結果、新規契約が増加した。

○体験利用は年間で 13 名が利用された。

</td></tr>
<tr><td>

2．ニーズに沿ったサービス改善やプログラムの充実を通じ、予約段階における利用者の最大限の確保

・キャンセル率を考慮した予約管理の徹底（予約率 90%以上）

・サービス提供時間を見直すとともに、各事業でのプログラム（日課）をリニューアル

・利用者からの利用者紹介を対象として、「お友達ご紹介プログラム」を検討

</td><td>

○平均予約率は 82.0%で目標を達成できなかった。

○通信機器を使用した日課プログラムの検討を開始し、名香山苑通所介護課で試行後、令和4年度下期に導入予定とした。

○利用者へ令和3年度版のパンフレット配布と共に、公文書にてお知り合いの紹介を依頼した。利用者からの直接紹介はないが、年間の新規数は 24 名と増加した。

</td></tr>
<tr><td>

3．機能訓練を中心とした多職種協働によるトータルサービスの実践

・介護職員や看護職員等の多職種協働で小集団やマンツーマンでの訓練を継続

</td><td>

○介護職員による集団体操と小集団訓練を実施した。

</td></tr>
<tr><td>

4．利用者ニーズに対応した訓練体制の確立と生活機能向上に効果的な機能訓練の実践

・機能訓練指導員が作成した訓練計画をもとに、介護職員と看護職員による生活動作の向上を目的とした訓練を継続

</td><td>

○介護職員によるリハビリ機器を使用した個別訓練を5名の方へ実施した。

</td></tr>
</table>

事 業 項 目	実 績
5．記録システムの導入よる情報の共有化と業務の効率化 ・記録システムの活用を促進し、システムによる連絡帳作成に移行（上期） ・記録システムの活用を促進し、システムによるケアプラン作成に移行（下期）	○記録システムを導入し、4～5月で実績入力、6月から業務日誌へ移行、9月から連絡帳への移行を開始した。 ○通所介護部会にて記録システムの標準書式でケアプラン移行を開始した。
6．5S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ・老朽化に伴う設備や車両点検を実施し早期修繕 ・超過勤務を減少させるため、日曜日を活用した業務の簡素化	○道路の割れ目の補修と、事務室に家庭用エアコン設置を行った。また、妙高市が来年度から実施する予定の建物・設備の大規模改修について、事前協議を行った。 ○日曜日の活用の再開と、記録システムの導入により、職員の時間外勤務が減少した。
7．安全な送迎サービスの実施（*） ・送迎マニュアルの周知と順守、過去に発生した車両事故の再検討により安全な送迎を実践	○冬期間、所長が送迎車に同乗し運転指導を行った。また送迎時の事故防止のためのマニュアルの再確認と車両のバック時の助手の笛吹きと状況によっては誘導棒を併用することを徹底した。

2．事故発生状況

項 目	介護医療	その他	合 計
件 数	0件	2件	2件

3．苦情受付状況

件 数	0件

名－1

＜特別養護老人ホーム名香山苑／介護老人福祉施設事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
居宅支援課、短期入所課、妙高病院と連携及び調整を行い、入所候補者に空床型短期入所の利用をすすめ 1,408 日の空床を 256 日埋めることができ、スライド入所により平均空床日数を目標達成することができた。報酬改定に伴い、加算算定のためのチームを編成し加算取得及び日常ケアへの向上につなげることができた。重度化に伴いオムツの使用頻度も高くなっているが、納入業者の協力のもとパッドの性能を活かしたオムツ交換回数の見直しに着手することができた。また、介護ロボット（見守り機器）を導入したことにより、看取り期の職員の精神的負担軽減につながった。

<table>
<tr><th>事 業 項 目</th><th>実 績</th></tr>
<tr><td>

1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保
・つなぎ・つながる会議を活用し、施設内事業所との連携と情報の共有化（年4回）
・妙高高原地区の情報交換会を活用し、同地区事業所との連携と情報の共有化

</td><td>

<table>
<tr><td>定　員</td><td>100 人</td><td>（100 人）</td></tr>
<tr><td>稼働率（件数）</td><td>96.1%</td><td>（96.0%）</td></tr>
<tr><td>平均介護度</td><td>4.3</td><td>（4.3）</td></tr>
<tr><td>事業活動収入</td><td>431,101 千円</td><td>（433,937 千円）</td></tr>
</table>
（　）は事業目標
○つなぎ・つながる会議を四半期ごとに、年4回定期開催した。
○今年度の妙高高原地区情報交換会は開催なし。

</td></tr>
<tr><td>

2．入院日数と新規入所に係る空床期間の短縮
・入所候補者の空床利用を促し、空床発生時に速やかな対応（空床日数7日以内）
・入院理由の分析を行い、ケア方法の周知、確認、提案を実施し入院リスクを軽減

</td><td>

○短期入所課、居宅支援課との連携により平均空床日数 5.8 日となり、目標を達成した。
○入院原因である肺炎及び尿路感染防止のため食事介助や食事姿勢の見直し、積極的な水分補給に努めた。
昨年度　入院人数 106 名　　日数 1,306 日
今年度　入院人数　99 名　　日数 1,258 日

</td></tr>
<tr><td>

3．空床型短期入所を最大限活用し、つなぎ・つながるサービス体系の積極的な情報発信
・空床型短期入所の活用（空床型短期入所含む稼働率 95%以上）

</td><td>

○空床 1,408 日のうち空床型短期入所利用は 256 日(18.2%)だった。
・空床型短期入所含む稼働率　96.8%

</td></tr>
<tr><td>

4．身体拘束廃止及び虐待防止の取り組みによる人権尊重と利用者本位の介護サービスの提供
＜個々の生活を捉えたケアマネジメントを実践し、自立と尊厳を支えるケアを提供する＞
＜職員体制など施設の強みを最大限活かす＞
・各専門職からのアセスメントを基に個々に応じた施設サービス計画を実践し、目標達成できるように支援（生活・機能訓練・栄養の目標達成 80%以上）
・入所者・家族を対象に満足度調査アンケートを実施し、その結果をもとにサービスの質の向上（年1回）
・身体拘束の廃止、不適切ケア等の改善（ケア方法の周知、確認、提案を実施）

</td><td>

○生活ケア目標達成率　90.6%（96/106 件）
機能訓練目標達成率　87.7%（93/106 件）
栄養ケア目標達成率　93.4%（99/106 件）
排せつケア目標達成率 94.1%（48/51 件）
褥瘡ケア目標達成率　90.2%（46/51 件）
口腔ケア目標達成率　98.0%（50/51 件）
○入所者、家族に満足度調査を実施、回収率は入所者 100%、家族 58.8%、集計結果と改善状況は、文書で園内掲示及び家族へ配布した。
○身体拘束廃止委員会を中心に、多職種で身体拘束解除に向けて検討し、解除2名となった。
（身体拘束者：年度当初5名、3月末現在3名）
○身体拘束排除研修（7/27、3/18）を実施した。
○虐待防止研修（4/19、3/18）を実施した。
○褥瘡防止チームを立ち上げ改善及び予防について検討し職員に周知を図った。

</td></tr>
</table>

事 業 項 目	実 績
5．介護ロボット等による入所者の重度化対応と生活の質の向上 ・見守り支援システムの効果検証及び評価を実施 ・リフトを導入し作業効率を高めるとともに、腰痛防止等の職員の作業負担を軽減	○県の補助金にて介護ロボット（見守り機器）を 1/12 に1台導入する。（全5台） ○毎月委員会にて使用状況確認等を実施した。 （看取り者3名・行動観察者2名に使用） ○リフトについては、作業・環境面から導入を見送った。作業負担の軽減に向けては、機能訓練指導員が、入所者の移乗動作や移乗・移動の介護方法を確認し、介護職員への指導を行った。
6．科学的根拠や実践効果が認められた質の高い認知症ケアの提供 ・「BPSD（認知症に伴う行動・心理症状）スポット調査」の結果を活かし、尊厳の保持のもと生活習慣や個々に応じたケアを実践 ・認知症ケアの質を高めるため、研修会を実施	○スポット調査は対象者不在のため中止した。 ○落ち着いた生活を過ごすことができるよう、入所者個々のBPSDに対し、趣味活動や役割作り、車窓ドライブ等を実践した。 ○認知症ケア研修（11/19）を実施した。
7．感染症対策の継続と新しい生活様式下での家族や地域のつながりを確保する方策の検討と実践 ・地域の子ども園や小学校に歌や踊り等の動画を依頼し、地域とのつながりを維持	○妙高高原こども園と妙高高原中学校より歌や踊りのDVDをいただき鑑賞会を実施した。 ○妙高高原こども園と妙高高原中学校へ卒業メッセージの壁画を作成し、飾っていただいた。
8．5S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ＜居住環境を整えることで、入所者が快適に生活できる空間を作る＞ ・施設内において修繕の必要な箇所を把握し、計画的に対応 ・職員に5S運動を啓発し、実践 ・施設ケア検討会議において、四半期毎に業務の効率化及びオムツの使用状況を確認して、コストダウンに向けた取り組み（業者による巡回指導） ・入所者の立場に立った住みやすい環境を提供・改善するため環境美化活動の実施	○冷暖房機器の点検を実施し、必要箇所の修繕を実施した。 ○食堂に断熱シートを張ることでストーブを出さずに室内温度を保つことができた。 ○屋根の雨漏り等の確認を行い来年度の修繕計画に反映した。 ○倉庫各所の整理整頓を毎月実施し、5S活動の啓発を実施した。 ○オムツの使用状況の把握及び適正オムツや交換回数の見直しについて実施した。 ・オムツ交換回数の減少者 11 名 ○居室内のベッド周りを中心に整理整頓を徹底した。
9．「暮らしの場」としての生活支援のため関係機関等との積極的な連携（*） ・施設での生活支援に活かすため、居宅介護支援専門員から初回のサービス担当者会議に出席してもらい、在宅時の様子等を確認（出席率 75%以上）	○対象となる新規入所者は 19 名で、入所前に担当していた介護支援専門員から出席してもらうことはできなかったが、対象者 19 名のうち 11 名には、文書でコメントをいただき施設サービス計画に反映させた。（コメントのプラン反映率 57.9%）

2．事故発生状況

項 目	介護医療	その他	合 計
件 数	3件	0件	3件

3．苦情受付状況

件 数	0件

名－2

＜名香山苑／短期入所生活介護事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
入所待機者等の長期利用や特養の空床利用の促進を図ることで、稼働の向上と安定を目指した。年度前半は他施設への入所や利用予定であった方の長期入院等で実績が低下したが、年度後半から冬季にかけては、越冬利用者や入所待機者の長期利用や、特養・病院等との連携により特養の空床利用が増えたことで稼働率が大幅に向上し、稼働目標を達成することができた。また、年間を通じて対応困難ケース等について、関係機関、多職種との連携を密にし、可能な限り対応し受け入れたことも稼働向上につながった。平均介護度については、重度者の特養入所が多かったため、目標値にはわずかに達しなかった。

<table>
<tr><th>事 業 項 目</th><th>実 績</th></tr>
<tr><td>

1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保
・選ばれる施設となるため、「外部への報連相」を強化する。生活相談員が居宅介護支援事業所・地域等へ出向き、利用者状況・事業の取り組み状況等をPR（月2回）
・リハビリ入院後の受け皿として利用の促進

</td><td>

<table>
<tr><td>定　員</td><td>22 人</td><td>（22 人）</td></tr>
<tr><td>稼働率（件数）</td><td>87.3%</td><td>（86.0%）</td></tr>
<tr><td>平均介護度</td><td>2.8</td><td>（2.9）</td></tr>
<tr><td>事業活動収入</td><td>79,159 千円</td><td>（73,337 千円）</td></tr>
</table>
（　）は事業目標
○妙高市及び中郷区の居宅介護支援事業所等については定期訪問や電話でPRを行った。（中郷区を除く)上越市まで訪問できなかったが、電話で利用者情報や事業の取り組み情報を提供した。
○妙高病院との連携により、退院時のカンファレンスなどスムーズな入所につながった。

</td></tr>
<tr><td>

2．キャンセル処理の迅速化とリピーターを増やす取り組みを継続し、予約段階における利用者の最大限の確保
・生活相談員を中心とした予約担当者の調整力と営業力を強化し、予約段階での利用者を最大限確保（月初予約を目標稼働率＋7%確保）
・居宅支援課・施設入所課との連携を強化し、空床型短期入所の利用促進

</td><td>

○月初予約の目標稼働率＋7%の達成は、1月、2月はできたが、それ以外の月は、達成することはできなかった。
○関係機関との連携を図ることで、空床型短期入所の利用は、年間で 256 日間の利用があった。
○長期利用だけでなく、短期利用の調整にも特養の入院等の空き情報を常に確認し、調整をした。

</td></tr>
<tr><td>

3．通所介護事業と連動した個別機能訓練を通じて、法人サービス間のつながりを強化
・通所介護・短期入所・自宅での機能訓練サイクルを確立させるため、利用時、必要に応じて個別に機能訓練を実施

</td><td>

○個別機能訓練について、体制を確保することができず、実施には至っていない。

</td></tr>
<tr><td>

4．障がい者、医療依存度の高い方、対応困難ケース等の積極的な受け入れ
・長期の障がい者の受け入れ先として、相談支援専門員との連絡調整機会の確保。
・利用がない場合は、随時電話にて相談支援専門員へ空床情報等の情報提供（月1回）
・医務看護課と連携し、医療依存度の高い方の受け入れ
・居宅支援課、通所介護課と合同で困難事例ケースの検討会を行い、対応力の向上（年2回）

</td><td>

○相談支援専門員と定期的に情報交換を行ったが、障がい者の利用依頼はなかった。
○医療依存度の高い方、対応困難ケースの受け入れは、関係機関との連携により積極的な受け入れに繋がった。
○困難事例ケースの検討会を1回実施した。他はその都度連携を図り相談することで対応力の向上に努めた。

</td></tr>
</table>

事　業　項　目	実　績
５．記録システムの導入による、情報の共有化と業務の効率化 ・記録システムの導入に向け、みなかみの里短期入所課と連絡・調整 ・記録システムを活用し、ペーパーレス等記録業務の効率化と多職種間の情報共有化を促進	○記録システムを導入し、みなかみの里短期入所課と運用に関し検討を行い、利用に向け研修会も実施。１月中旬から運用を開始した。業務日誌と個々のケース記録に関わる効率化を図った。 ○記録システムを活用し、ペーパーレス化に向け、更なる検討を行った。
６．５S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ・業務内容の見直しと再構築（月１回、業務改善会議にて実施） ・事業所内外の美化を目的とした環境改善 ・老朽化に伴う施設や介護設備、車両の点検による安全の確保	○毎月の事業別会議にて業務内容等の見直しを検討した。 ○整理整頓に心がけ、効率よく業務が実施できるよう備品を購入した。（エアマットやセンサーマットなど） ○介護機器、車両等、定期的に点検し、不具合が生じた場合は、随時、修繕するなど安全管理を行った。

２．事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	５件	１件	６件

３．苦情受付状況

件　数	０件

名－3

＜名香山苑デイサービスセンター／通所介護事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
年度当初より計画を上回る高稼働率を維持していたが、下半期には例年にない大雪となったことで、短期入所や施設入所等への移行者が増加し、さらに大雪による当日キャンセル数が過去最高となり稼働率は低下した。結果として年間平均は若干上昇したがより一層軽度化が進んだ。業務内容については記録システムを導入し、業務日誌・連絡帳などを移行したことで業務の効率化を図ることができた。 さらに通信機器を使用した日課プログラムの検討を開始し1月より導入したことで、業務内容の電子化を進めた。日課プログラムの完成後は他の通所介護事業所で運用することとした。

<table>
<tr><th>事 業 項 目</th><th>実 績</th></tr>
<tr><td>**1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保**
・体験利用を促進し、契約に繋げることで実利用人数を増やし、稼働の安定化</td><td>
<table>
<tr><td>定　員</td><td>35 人</td><td>（35 人）</td></tr>
<tr><td>稼働率（件数）</td><td>85.9%</td><td>（84.6%）</td></tr>
<tr><td>平均介護度</td><td>1.7</td><td>（1.6）</td></tr>
<tr><td>事業活動収入</td><td>85,614 千円</td><td>（86,135 千円）</td></tr>
</table>
（　）は事業目標
○高稼働率維持とキャンセル待ちが多いため、体験利用の計画は保留とした。</td></tr>
<tr><td>**2．ニーズに沿ったサービス改善やプログラムの充実を通じ、予約段階における利用者の最大限の確保**
・キャンセル率を考慮した予約管理を徹底（予約率 90%以上）
・各事業でのプログラム（日課）のリニューアルを図り、利用者満足度を向上</td><td>○平均予約率は 96.2%で目標を達成した。
○通信機器を使用した日課プログラムの検討を開始し、12 月にデモ後、1月より導入した。</td></tr>
<tr><td>**3．機能訓練を中心とした多職種協働によるトータルサービスの実践**
・生活環境をアセスメントし、生活動作の向上を目的とした適切な訓練計画を作成・実施
・機能訓練指導員が中心となり、通所介護・短期入所・自宅での機能訓練サイクルを検討</td><td>○機能訓練指導員による自宅訪問と介護支援専門員や看護職員と連携しながら効果的なPDCAサイクルを実践した。</td></tr>
<tr><td>**4．利用者ニーズに対応した訓練体制の確立と生活機能向上に効果的な機能訓練の実施**
・利用者ニーズに対応した最新通信機器を用い、機能訓練指導員が中心になり、多職種による効率的な機能訓練を実施（上期）
・1階エントランスを活用し、機能訓練環境を見直し、強化（下期）</td><td>○通信機器を1月に導入し、通信機器を使用した集団訓練プログラムを開始した。
○妙高の里より、平行棒、ウォーカー、ホームジムのリハビリ機器を移動させ、機器を増加して環境を整備した。機能訓練対象者に最新運動機器のニーズ調査を実施した。</td></tr>
<tr><td>**5．記録システムの導入による情報の共有化と業務の効率化**
・記録システムの活用を促進し、システムによる連絡帳作成に移行（上期）
・記録システムの活用を促進し、システムによるケアプランやモニタリングの作成に移行（下期）</td><td>○記録システムを導入し、4～5月で実績入力、6月から業務日誌へ移行、9月から連絡帳への移行を開始した。
○他の通所介護課と連携し記録システムの標準書式でケアプラン移行を開始した。</td></tr>
</table>

事　業　項　目	実　績
6．5S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ・老朽化に伴う設備や車両を点検し、早期修繕を実施（中間浴機の更新）	○中間浴機の更新については、老朽化しているものの、故障することもなく順調に稼働していたため、令和4年度以降に先送りした。
7．安全な送迎サービスの実施(*) ・送迎マニュアルの周知と順守、過去に発生した車両事故の教訓をもとに、安全な送迎を実践	○送迎時の事故防止のためのマニュアルの再確認と車両のバック時の助手の笛吹きと、状況によって誘導棒を併用することを徹底した。

2．事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	0件	0件	0件

3．苦情受付状況

件　数	0件

名－4

＜名香山苑在宅介護支援センター／居宅介護支援事業＞
令和3年度事業報告

1．事業実績

事 業 の 総 括
今年度も介護支援専門員5名体制で適正な件数で業務を行うことができた。年度当初は契約数が減少すると見込んでいたが新規依頼は年 57 件、入所・死亡等による解除は年 45 件あり、結果として目標件数を達成することができた。特養と短期入所での長期利用システムの構築に全面的に協力し、空床型短期入所利用を促進し、スムーズな特養入所につなげることができた。居宅支援課・短期入所課・施設入所課・通所介護課の連携を維持できた一年となった。

事 業 項 目	実 績
1．稼働率の維持・向上と安定的な収益確保 ・積極的に新規を受け入れるため、地域包括支援センターや妙高高原支所、妙高支所、妙高病院に空き情報提供（月1回）	稼働率（件数） 202.5 件／月 （200.0 件／月） 平均介護度 1.7 （1.6） 事業活動収入 31,089 千円 （30,826 千円） （ ）は事業目標 〇毎月1回報告書にて空き情報を伝えている。 新規 57 名、解除 45 名 （介護⇔予防の方は含まない） 妙高病院からの新規の紹介もあり、実績アップにつながった。
2．特定事業所としての情報発信と、契約件数増加への取り組み ・住み慣れた地域で暮らし続けるために、限られた地域資源（医療・介護・生活支援等）の活用情報を広報誌やブログ等で発信 ・選ばれる事業所になるために、事業のパンフレットを妙高地域、妙高高原地域の公共機関に置いてPR（随時）	〇毎月のブログや広報誌で情報発信を行った。 〇妙高地域、妙高高原地域の病院や薬局などにパンフレットを置いてもらい、PRを行った。
3．予防給付の取扱い件数の適正化と、フレイル予防に向けたケアマネジメントの充実 ・予防マネジメント件数の適正化 （給付管理数の介護8：予防2の割合を維持） ・フレイル予防に向けて、健康増進、栄養（食事・口腔）、運動（筋力の維持向上）、社会参加の情報発信	〇予防ケアマネジメントは、702 件。月平均 58.5 件。予防ケアマネジメントは増加傾向だが、今後も予防から介護への移行を見越して断らずに受けていく。介護から予防への移行は4件、予防から介護への移行は 16 件。 〇フレイル予防の観点から、広報誌やブログで情報発信した。機能訓練指導員参加による事例検討会を開催し、フレイル予防について学びを深めた。
4．法人事業間の連携の要として、利用者と法人事業をつなぐ取り組みの強化 ・居宅支援課が中心となり、「つなぎ・つながる会議」を基盤とした名香山苑在宅サービスから施設入所までの流れに積極的に参画 （法人在宅サービス利用率 90%以上）	〇公平中立な立場で複数のサービス事業所を提示し、選定に関する情報提供のなかで、法人サービスの強みを説明した。 〇法人サービスへの紹介率 ・新規利用者で通所介護・短期入所・訪問介護の利用者：86.4%（44 名中 38 名） ・特養入所者：78.6%（14 名中 11 名） ・小規模多機能へ移行者：なし ・地域や事業所を指定されるケースもあり、目標値には達しなかった。

事　業　項　目	実　績
5．介護支援専門員による自己評価を実施し、質の高いケアマネジメントの実践 ・事業所別会議（週１回）と事例検討（月１回）を計画的に行い、介護支援専門員の資質を向上 ・個別課題や地域課題の解決に向けて関係機関と協力し、妙高高原の地域包括ケアの構築に貢献	○週１回事業所別会議を行い、事業所内で情報共有した。２月には２年ぶりに妙高市包括支援センター主催のWeb会議ツールによる、ケアマネ広場が開催され、他事業所の介護支援専門員とともに事例検討会や情報交換を行った。 ○重度者や自宅での生活困難者について、施設入所課、短期入所課、妙高病院等と連携し、状況に適した施設に振り分けすることができたため、特養待機期間から入所までスムーズにつなげることができた。
6．5S活動を継続し、職場内の環境改善と業務効率化の推進 ・記録システムと事業所間の情報閲覧システムの導入	○記録システムの説明を受け、事業所内で導入後のメリットについて検討したが、主だったメリットが見出せず導入は令和4年度へ持ち越しとした。

２．事故発生状況

項　目	介護医療	その他	合　計
件　数	0件	0件	0件

３．苦情受付状況

件　数	0件

委－1

＜妙高市高齢者生活福祉センター／妙高市委託事業＞
令和3年度事業報告

1. 事業実績

事 業 の 総 括
定員 12 名のところ、12 月から4月までの5ヶ月間で、6名の方が入居された。入居理由は、降雪等のため自宅での生活が困難な方がほとんどであり、入居期間中、体調不良等なく平穏に生活された。職員による施設内清掃を強化し、清潔で快適な環境の中で生活することが可能となり、入居者からは好評であった。

事 業 項 目	実 績
●妙高市高齢者生活福祉センター運営業務の適正かつ円滑な実施 ＜入居者の自立した安全で快適な生活を支援する＞ ・個々の居住空間、プライバシーを尊重し、自立した生活を送ることができるような支援を実施	○日中は、支援員が見守り、夜間は宿直員が滞在し、個々の生活を援助した。
・バイタルチェック（体温・血圧測定等）により、毎日の体調を記録し、健康管理に役立て、変化のあるときには適切なアドバイスを実施	○毎朝、バイタルチェックを行い、異常の早期発見に努めたことで、期間中の体調不良者はいなかった。
・感染症や食中毒の発生と感染拡大防止を図るための情報提供の実施	○随時、支援員が見守りと情報提供を徹底し発生防止や感染症拡大に努めた。
・共同生活に係わる事項について、不便さや悩み等の相談に対応し、共に考える支援を実施	○随時、支援員が相談相手となり対応した。
・災害時の避難訓練への参加を通し、防災意識を高めるとともに、緊急時の対応を明確に示す等有事に備えた取り組みを実施	○総合防災訓練・初期消火訓練を実施した。
・妙高市等関係機関との連携を図り、安心で安全な生活環境づくりを実施	○5月～11 月に施設内清掃を強化し、清潔な環境を整えた。また、5月と 11 月に防虫駆除を実施した。入居者アンケートを実施し、入居者からの要望で部屋にカーペットを設置した。

2. 事故発生状況

項 目	介護医療	その他	合 計
件 数	0件	0件	0件

3. 苦情受付状況

件 数	0件